安息日聖書教科

大教師からの譬

Vol. 94, No.2
2018 年 4 月 -6 月

目次

種まき	5
真理の種を植える	10
麦の中の毒麦	15
真理のパン種	20
取税人とパリサイ人	26
放蕩息子	31
いちじくの木	36
礼服なく	41
金持ちとラザロ	47
良いサマリヤ人	52
許すべき時	57
行為は言葉よりも大声で語る	62
花婿を迎える	67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔　〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部（P.O.Box 7240 Roanoke,Virginia 24019-0240,U.S.A）

安息日聖書教科 Vol.93,No.4

編集＆発行：
ＳＤＡ改革運動日本ミッション

〒368－0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ケ久保1607－1

TEL：(0494) 22-0465

FAX：(0494) 40-1045

URL：
http//www.4angels.jp

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト：Good Salt on the front cover, Adobe Stock on pp. 25, 72, and Map Resources on pp. 4, 46, 72.

Printed in Japan

まえがき

イエスが地上におられたとき、このお方は当時の最高の教育者以上の大教師として認められました。それでいながら、このお方の教え方は単純でした。このお方は偉大な真理を人々に明らかにするために譬が教える日常的な活動をお用いになりました。

「イエスは人々の困難をよく知っている者として、彼ら自身の立場に立って人々に応対された。彼は真理を最も率直で単純な方法で示すことによって、それを美しいものとされた。イエスのことばは純潔で、洗練されていて、流れる川のように澄んでいた。……しかし、教えは単純であったが、イエスは権威を持つ者として語られた。この特徴のために、イエスの教えはほかのすべての人たちの教えと対照的だった。ラビたちは、聖書のみことばがある意味にも解釈され、またはそれと全然正反対の意味にも解釈されるかのように、疑いとためらいとをもって語った。聞く者たちは毎日ますますわからなくなった。しかしイエスは聖書を疑問の余地のない権威のあるものとして教えられた。どんな問題であっても、イエスのみことばに反ばくする余地がないかのように、それは力づよく語られた。」(各時代の希望上巻 316)

「キリストが語ろうとされる真理に対して、人びとの側では受けいれる準備もなければ、理解することさえできないことがあった。キリストがたとえを用いてお教えになったもう一つの理由はこれであった。また、その教えを人生の実際のできごとや経験や自然界と結びつけて、人びとの注意をひき、深い感銘をお与えになった。キリストの教えの例としてあげられたものを、人びとがあとで見たときに、彼らは、天からの教師イエスのことばを思い出した。こうして聖霊の働きに対して開かれている心には、救い主の教えの意味がますます明らかに示された。神秘的なことも明りょうになり、前には把握（はあく）できなかったことも明白になった。……

彼は、高い地位の人びとの偽善と悪行をたとえによって責め、鋭く人の心を刺す真理を比喩的なことばによって表現された。もしもイエスが直接人びとに非難のことばを言われたとするならば、彼らは耳を傾けるどころか、ただちに、イエスの伝道の働きを阻止したことであろう。……

こうして、どんな職業に従事し、どんな社会にいようとも、そこで神の真理を学ぶようにイエスは望まれる。そうするとき、日常の雑事に心を奪われて、神を忘れることはない。自然は常に、わたしたちの創造主であり、あがない主であるイエスを思い起こさせる。神の思いは、黄金の糸のように、わたしたちのすべての家庭の仕事や職業の中に一貫して見られるようになる。」(キリストの実物教訓 5 ～ 9)

わたしたちが日常の仕事や交わりの中に、神へと自分たちの思想を引き上げる教訓を見出すのを、神が助けて下さいますように。わたしたちが今期の教訓を研究するとき、再度自分の生活の焦点を合わせ、キリストと、日常生活の普通の事柄に表れているキリストの大いなる愛を眺めることによって、このお方のみかたちへ変えられていきますように。

世界総会安息日学校支部

安息日 2018 年 4 月 7 日

第一安息日献金
ベネズエラの治療院のために

ベネズエラ、すなわち正式にはボリビアン・ベネズエラ共和国という国は、南アメリカの北岸に位置する連邦制共和国です。この国には 3,100 万人を超える人口がおり、そのうち 71%はカトリックで 17%はプロテスタントです。ベネズエラは近年、経済不安と食糧不足を経験してきました。わたしたちは、次の勧告が特に今のベネズエラにおける主の働きに当てはまると信じています。

「神はご自分の民を世を啓発するのにふさわしいものとしてこられた。このお方は彼らに、ご自分の働きがこの地球をとりまくまで拡張するための能力をお委ねになった。地のあらゆるところで、彼らは治療院、学校、出版所、そして同類の施設を、このお方の働きを成し遂げるために開設すべきである。

福音の最後のメッセージは、『あらゆる国民、部族、国語、民族に』伝えられなければならない (黙示録 14:6)。海外の諸国においてこのメッセージを前進させるために多くの事業がこれから始められ、実施されなければならない。……医事伝道団が、苦しんでいる人々を助ける神の助け手として働くために設立されなければならない」(健康に関する勧告 215)。

ベネズエラで、わたしたちは小さな治療院の開発と設立に携わってきました。この事業は着実に前進しています。しかるべき土地を購入し、機械製図も進んできました。わたしたちの信徒の多くがこの事業に胸を躍らせ、慎ましい献金を捧げてきました。また他の人々はこの事業が成功のうちに完成するまで、働き続けることを誓っています。主イエスは人材に働きかけて下さり、建設でも医事や看護でもこのお方の召してくださる場所で奉仕したいという願いを起こしてくださいました。しかし、わたしたちはこの働きを完成させ、霊感によって勧告を受けている通り、たしかに成功するのに必要な資源をみな受けるまでは前進したいと思いません。

この建設を完成させる資金の緊急な必要を考慮し、わたしたちは謹んでイエス・キリストの愛のうちに、病人や困窮している人を助け、罪に悩む多くの魂の救いのための場所を建設する資金的な援助をお願いいたします。神がこの働きにおいて栄光をお受けになりますように。皆さんの惜しみない献金にお礼申し上げます。

ベネズエラの皆さんの兄弟姉妹より

種まき

「主はユダの人々とエルサレムに住む人々にこう言われる、『あなたがたの新田を耕せ、いばらの中に種をまくな』。」（エレミヤ 4:3）

「心の畑は、耕さなければならない。土地は、罪に対する真心からの悔い改めによって、耕されなければならない。悪魔的毒草は、ぬかなければならない。いばらが一面にはえていた土地はけんめいに努力してこそはじめて回復することができるのである。そのように、生まれながらの心の悪の傾向も、イエスの名と力によって、熱心に努力してこそ、打ち勝つことができるのである。」（キリストの実物教訓 34）

推奨文献：　キリストの実物教訓 10~47

日曜日　*4月1日*

1.　譬の中の教え

a.　キリストの働かれた当時、神の民だと公言する人々の間で、どのような状態が存在したために譬を用いる必要が生じましたか（マタイ 13:10–13）。

「救い主の代わりに奇跡を求めた〔ユダヤ人〕には、キリストの福音は、つまずきの石であった。彼らは、メシヤが偉大なわざをなしとげてご自分がメシヤであることを証拠だて、地上の国々を打ち破ってメシヤ王国を建設するものと期待した。その期待に、キリストは種まきのたとえをもっておこたえになった。神の国が発展していくのは、武力や暴力の干渉によってではなくて、人の心に新しい原則を植えつけることによってである。」（同上 12）

b.　どの預言に、イエスは譬の中のご自分の教えを関連づけられましたか（イザヤ 6:9; マタイ 13:14, 15）。

「こうして聖霊の働きに対して開かれている心には、救い主の教えの意味がますます明らかに示された。神秘的なことも明りょうになり、前には把握（はあく）できなかったことも明白になった。」（同上 5）

2. 種まきの譬

a, 種まきの譬は、何についてでしたか（マタイ 13:3–8）。

「この種まきのたとえが主として扱っている問題は、種のまかれた土地の状態が、種の成長にどんな影響を及ぼすかということである。……

あなたにとって一番大切なことは、あなたがわたしの使命をどう扱うかということである。あなたがそれを受けるか拒むかによって、あなたの永遠の運命が決まるのである。」（キリストの実物教訓 20）

b. 道ばたにまかれた種は、何を意味していますか（マタイ 13:19）。

「道ばたにまかれた種は、神のことばが不注意な人の心に落ちた場合をあらわしている。ちょうど、人や牛馬にふまれて道がかたくなっているように、心は世の売買と世の快楽や罪のために固くなっている。その人は、勝手気ままな罪深い生活に心を奪われて、『罪の惑わしに陥って、心をかたくな』にしている（ヘブル 3:13）。霊的能力はまひしている。人びとはみことばを聞いても理解せず、そのことばが自分たちにあてはまっているのを悟らない。彼らは、自分たちの必要も危険も自覚しない。彼らはキリストの愛に気づかない。そして、キリストの恵みの使命も、自分たちにはなんの関係もないもののように無視してしまう。」（同上 21）

c. 教会に不和をまきちらす人々を、神はどのように見なされますか（箴言 6:16–19）。この行為は、どのように悪魔をその働きにおいて助けますか（ルカ 8:11, 12）。

「クリスチャンであると称しながら、真理の種を人びとの心から奪い取って、サタンの手助けをしている者が多い。説教を聞いて帰って、家でそれを批評の材料にする者が多いのである。……神からのことばとして受けるべきメッセージを軽々しく茶化してしまう。牧師の品性のことから始めて、その動機と行動、または、教会員の行為に至るまで 、無分別に話し合い、手きびしい判断を下し、人のうわさ話や悪口などを未信者のいる前で平気で言うのである。親は子供の聞いているところでよくこうしたことを言う。こうして、神の使者たちに対する尊敬と、彼らの語る使命に対する敬意とを失わせる。そして、多くの者は、神のことばそのものをも軽々しく扱うようになってしまうのである。」（同上 21, 22）

3. 犠牲を払いたくない心

a. 石地に落ちた種は、どうなりましたか（マタイ 13:20, 21）。

「わたしには信仰があると口先だけで言っている人の多くは、石地の聴衆である。地下に岩があるように、良いことをしたいという願いや大きな希望の下には、生来の利己心が横たわっている。自己愛が征服されていないのである。彼らは、罪がいかに恐ろしいものであるかを悟らず、罪の自覚によって心がくだかれていない。この種の人びとはすぐに受け入れて、有望な改心者のように思われるけれども、彼らはほんの表面だけの宗教しか持っていないのである。

そうかといって、すぐにみことばを信じ、喜んでいる人なら必ずつまずくとも限ってはいない。……人びとは、その払うべき価を十分に見積もらない。彼らは 、神のことばが何を要求するものであるかを考慮しない。彼らは、人生のあらゆる習慣をみことばに照らしてみて、みことばの支配に全く従うことをしない。」（キリストの実物教訓 23, 24）

b. 富める青年は、どのように自分が石地の聴衆であることを表しましたか（マタイ 19:22）。わたしたちは、どのように同じ態度を表す可能性がありますか（ヨハネ 6:60）。

「罪からの救いを求めるのではなくて、苦しみを避けるために、福音を受けいれるものが多くいる。宗教とは、困難や試練から人間を解放するものであるかのように思っているから、しばらくは喜んでいる。彼らは生活が平穏な間は、堅実なクリスチャンらしく見えるのである。しかし、はげしい誘惑に出会うと倒れてしまう。彼らは、キリストのためにうける恥辱に耐えることができない。神のことばが、心に秘めた罪を指摘し、克己と犠牲を要求したりすると、彼らはつまずいてしまうのである。彼らの生活を徹底的に改革することは、あまりにも努力を要することなのである。彼らは、現在の不便や試練をながめて、永遠の実在のことを忘れてしまうのである。」（同上 24）

c. 神はわたしたちから何を要求しておられますか。そしてイエスはどのようにわたしたちに模範を残されましたか（ルカ 9:23; ローマ 12:1; 5:6–8）。

「キリストは、わたしたちのためにすべてをお与えになったのであるから、キリストを信じるものは、あがない主のために、喜んですべてを犠牲にするのである。また、キリストに誉れと栄光を帰することをまず第一のこととするようになるのである。」（同上 26）

4. 世俗といういばらにふさがれる

a. 良い種をふさぐいばらは、何を意味しますか（マルコ 4:18, 19; ルカ 8:14）。

b. 現世のわずらいが真理の良い種をふさがないようにするために、何を覚えているべきですか（マタイ 6:25–32; 詩篇 55:22）。

「クリスチャンは、働かなければならない。また、商売もしなければならない。しかも、それを罪を犯さずにできるのである。ところが、多くの者は、事業に没頭してしまい、祈りのための時間や、聖書研究の時間や、神を求めて、神に仕える時間がないのである。時には、清めのことや天のことを渇望することもあるが、世の雑音から離れて、神の霊のおごそかな権威あるみことばに耳を傾ける時間がないのである。永遠の事物はあとまわしにされ、世の事がらが第一のものとされている。これでは、みことばの種が実を結ぶことは不可能である。世俗といういばらを育てるために魂の生命が奪われているからである。」（キリストの実物教訓 29）

c. どの態度が、世の富に良い種がふさがれていることを示しますか（申命記 8:17）。

「富を愛することは、人の心をとらえて惑わす力をもっている。世の財宝を持っている者は、とかく、彼らに富を得る力を与えるのが神であることを忘れる。……富は、神の栄光と人類向上のために用いるべきタラントであると考えずに、自己のために用いるものであると思う。」（同上 29, 30）

d. わたしたちは、どのように「その他いろいろな欲」がみ言葉をふさがないようにすることができますか（マルコ 4:19; マタイ 6:33, 34）。

『その他いろいろの欲』これらのものは、必ずしも何か罪深いものというわけではない。しかし、それは、神の国をさしおいて第一位におかれるもののことをいうのである。人の心を神から奪い去り、心の愛情をキリストから引き離すものは、なんであっても、魂の敵である。」（同上 30）

木曜日 *4月5日*

5.　　良い地にまかれた種

a.　もしわたしたちの心が良い地のようであれば、神のみ言葉をどのように受けますか（テサロニケ第一 2:13; エレミヤ 15:16）。

「聖書を自分に語りかける神のことばとして受けいれる人だけが真に学ぶ者である。……

しばしば 、神のみことばは、人間の先天的、あるいは後天的性質、または、社会の習慣などと衝突することがある。けれども、良い地という聴衆は、みことばを受けいれるときにそのいっさいの条件と要求とを受けいれるのである。 そして、これまでの習慣や風習などを神のことばに従わせるのである。彼にとって、有限で誤りやすい人間の命令などは、無限の神の戒めとは比較することができないほど全く無意味なものになってしまう。」（同上 37, 38）

b.　心を個人的に耕すことが、どれほど重要ですか（エレミヤ 4:3, 4）。

「種まきのたとえ全体を通じて、種まきの結果がこのように相違しているのは、土地の状態いかんによるものであることを、キリストは示された。どの場合を見ても、種をまく人と種は同じである。神のみことばが、わたしたちの心と生活になんの効果もあらわさないとすれば、その原因は、わたしたちにあることを、こうして教えておられるのである。しかし、このような結果も、決してどうにもならないというものではない。確かに、わたしたちは自分を変えることはできない。けれども、わたしたちには選択の力がある。そして、自分が将来、何になるかは、自分が決めるのである。道ばた、石地、いばらの地の聴衆は、いつまでもそのままでいる必要はないのである。神の聖霊は、常に、世のことに心を奪ってしまう迷夢から、わたしたちをさまし、永遠の富に対する願いを起こさせようと働かれる。」（同上 33, 34）

金曜日 *4月6日*

個人的な復習問題

1. **キリストの教えを理解できるのは、だれだけですか。**
2. **わたしたちは、どのように道ばたの聴衆を助けることができますか。**
3. **わたしたちは、ただちに真理を受け入れて、その価を見積りません。その価は何ですか。**
4. **どのように何か良いものが、真理の尊い種をふさいでしまうかもしれませんか。**
5. **神のみ言葉を研究するとき、わたしたちは自分の習慣や品性のある特質について何に気づくでしょうか。これらに対して、わたしたちはどうすべきでしょうか。**

真理の種を植える

「わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。」（ガラテヤ 6:9）

「地上の種をまく者がわたしたちの現世の命をささえるために種を植えているとき、天の種をまく者、キリストは、永遠の命に至る実を結ぶ種を魂の中に植えられるのである。」（キリストの実物教訓 69）

推奨文献：　キリストの実物教訓 41~47, 53~69

日曜日　*4月8日*

1.　力は神から

a.　わたしたちは自分の存在をだれに負っていますか（使徒行伝 17:28; イザヤ 44:24）。

b.　神は命を支えるために、すべての人類に、どの二つのものを供給しておられますか（マタイ 5:45）。神のみ力は霊的な領域において、どのように働きますか（イザヤ 55:10, 11）。

「種には命があり、土には力がある。無限の力が昼となく夜となく活動していなければ、種は、実を結ばない。乾燥した原野にうるおいを与えるために、雨が降らなければならない。また、太陽は熱を与え、埋もれた種には電力が通じなければならない。創造主が植えつけられた命は、創造主だけが呼び起こすことができるのである。どの種の発芽も、どの植物の成長も、みな神の力によるのである。……

自然界の種まきと霊の種まきは同じで、真理を教える者は、まず心の土地の用意をしてから種をまかなければならない。しかし、命を発生させる力は、神からだけくるのである。人間には限界があって、それ以上はどんなに努力してもむだである。わたしたちは、みことばを宣べ伝えるのではあるが、魂を生きかえらせる力を与えることはできない。また、義を生じ賛美の声をあげさせることもできない。みことばの宣教には、人力以上の力が働かなければならない。ただ神の霊によってのみ、みことばは、生きた力を持つようになり、魂を造りかえて永遠の命に至らせる。」（キリストの実物教訓 43, 44）

2. 種をまく

a. イエスの譬の中の種によって何が表わされていますか（ルカ 8:11）。

b. この種を、わたしたちはどこにまくべきですか（伝道の書 11:6; イザヤ 32:20）。

「すべての水のほとりに種をまくとは、助けの必要なところには、どこにでも与えることである。そのために乏しくなることはない。『豊かにまく者は、豊かに刈り取る』（コリント第二 9:6）のである。農夫は、種をまきちらすことによって、その種を幾倍にもふやす。そのように、与えることによって、恩恵は増すのである。与えつづけてもいいように、神の御約束には充分な物が保証されている。

そこには、もっと深い意味がある。われわれが人にこの世の恩恵を分け与えるとき、それを受ける人は、感謝の気持ちから、心を開いて霊的な真理を受け入れるようになる。こうしてそこには永遠の生命という収穫がもたらされる。

穀物をまくことによって、その穀物を保存する。同様に、保存される生命は、神と人類への奉仕のために、無条件にささげられる生命である。」（教育 116.117）

c. 福音の種を、どのようにまくべきですか。それはなぜですか（コリント第二 9:6）。

「わたしたちは、神の愛のうちに自分の魂を保ち、昼の間に働き、主人の奉仕においてわたしたちに委ねられた手段を用いながら、すべての水のほとりに種をまくべきである。わたしたちの手のなしうることは何でも、快活になすべきである。わたしたちが犠牲を払うように召されることは何でも、快活にそうすべきである。わたしたちが水のすべてのほとりにまくとき、次のみ言葉の真実性を自覚するようになる、『豊かにまく者は、豊かに刈り取る』。

わたしたちはすべてのことを、恵み、すなわち最高の恵みに負っている。恵みはわたしたちの贖いと、わたしたちの再生、そしてイエス・キリストと共に相続にあずかる養子縁組を定めた。この恵みが他の人々に表されるようにしよう。

救い主は形づくられるのがお分かりになる人々を受け入れ、彼らをご自身の御名の栄光のためにお用いになる。このお方は他の人々が見過ごすような材料をお用いになり、ご自分に献身するすべての人のうちに働かれる。このお方は一見見込みのないような材料、すなわちサタンが堕落させてきた人々、彼が働いてきた人々を受け入れ、ご自分の恵みの臣民になさることを喜ばれる。このお方は彼らを苦しみから、また不従順な者に下る怒りから救出することをお喜びになる。このお方はご自分の子らをこの働きを成し遂げる代理人となさり、彼らはその成功のうちに、この世においてさえ、貴重な報いを見出すのである。」（キリストを映して 256）

3.　種の成長

a.　良い種は、どのように心の中で成長しますか（ゼカリヤ 4:6; ホセア 14:5, 7; マルコ 4:26, 27）。

「苗木は、その生命をささえるために神がお備えになったものを受けて、成長するのである。苗木は地中に根をおろし、日光を浴び、露や雨にうるおされる。空気中から生命をささえる養分を受ける。それと同じように、クリスチャンも神がお備えになるものを受けて成長しなければならない。自分たちの無力を感じつつも、豊かな経験を得るために、与えられたすべての機会を活用しなければならない。苗木が地の中に根をおろすように、わたしたちは、キリストの中に深く根をおろさなければならない。また、苗木が太陽の光や露や雨を受けるように、わたしたちも、心を開いて、聖霊を受けなければならない。」（キリストの実物教訓 45, 46）

b.　わたしたちは自分の心のうちに成長している種が良いものか悪いものか、どのようにわかりますか（ルカ 6:45）。神は、わたしたちのうちに良い種が成長するとき、何をするよう願っておられますか（38 節）。

「言葉や行動は心のうちに何があるかを率直に証する。もし虚栄や誇り、自己愛と衣服への愛着が心を満たしているなら、会話は流行、衣服、外観のことについてであり、キリストや天の御国のことについてではない。もし妬ましい感情が心のうちに宿っているなら、同じものが言葉と行動に表れるようになる。……

ある人々は自分が何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかとずっと考えている。彼らの心はこれらの思想でいっぱいであり、それらが、あたかも人生における彼らの壮大な目的、最高の偉業であるかのように、心から豊かにあふれ出る。」（わたしたちの高い召し 283）

「一度キリストの愛を味わった心は、もっと深く飲むためにたえず呼び求める。そして与えるにしたがって、より豊かに、より潤沢に受けるのである。……失われた人類の救いのためにご自身をむなしくされたイエスには、聖霊が限りなく与えられた。同じように、主が内にお住まいになれるように全心をささげる時、キリストに従うすべての者に聖霊が与えられるのである。」（祝福の山 25）

c.　わたしたちの経験のどの分野において、神は特に成長を見たいと望んでおられますか（ペテロ第二 3:18; テサロニケ第二 1:3）。

4. 小さい種からの教訓

a. からし種から、どの教訓を学ぶことができますか（マルコ 4:30–32）。

「このように大きくなった〔からし〕の種はといえば、種の中でも最も小さいものの一つであった。それは、最初、若芽を出す。その強い生命力にあふれた芽は、ますます茂って、大きな木になるのである。そのようにキリストの王国も、最初のうちは、取るに足らない微々たるもののように思われた。それを地上の国々に比較するならば、最も小さいもののように見えた。この世の支配者たちは、キリストの王権の主張をあざ笑った。しかし福音の王国の命は、キリストの弟子たちにゆだねられた偉大な真理の中にひそんでいた。しかも、その成長はなんと早く、その感化はなんと広い範囲にまで及んだことであろう。キリストがこのたとえを語られたときには、この新王国を代表したものは、少数のガリラヤの漁夫たちに過ぎなかった。彼らはまた、貧しかったので、このような少数の無学な弟子たちの仲間には加わるものではないと、強く主張する人びともあった。ところが、からし種は、生長してその枝を全世界に広げることになっていた。当時の民衆の心を満たしていた世界的国家の栄光が消え去ったあとにも、キリストの国は存続して、偉大な感化力を地のすみずみにまで及ぼすことになるのである。」（キリストの実物教訓 54, 55）

b. わたしたちが人生において小事にすぎないと思う事がらが、どれほど重要ですか。それらは本当に小事ですか（雅歌 2:15）。

「一粒の麦でも、幾度もまいているうちには、ふえつづけてついには全地を黄金の穂波でおおうであろう。ただひとりの一生、たった一つの行為でさえも、その影響はこれと同じようにひろがるのである。」（教育 116）

c. 種からの植物の成長について、わたしたちはどれくらい知っていますか（マルコ 4:26–29）。これはわたしたち自身の成長と、どのように関連していますか。

「神の恵みの雨に備えて、子供の心の土を、その生涯の最初の数年の間に注意深く準備しなければならない。それから細心の注意を払いながら真理の種をまき、忠実に手入れをしなければならない。神の名によってなされるすべての努力に報われる神は、まかれた種の中に生命を吹き入れてくださる。そして初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができるのである。」（ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｽﾄ・ﾎｰﾑ 218）

木曜日　4月12日

5.　　因果の法則

a.　わたしたちが収穫において何を刈り取るかは、何が決定しますか(ガラテヤ 6:7, 8; マタイ 7:16, 17)。

「自然界における神の法則によって、原因に結果が伴うことは不変の真理である。収穫は、種まきをあかしする。そこにみせかけは通用しない。人は世間を欺いて、自分では手をくだしたことのない奉仕について賞賛と報酬をうけることができるかもしれない。しかし、自然界にはあざむきというものはあり得ない。不忠実な農夫に対しては収穫がその罪を宣告する。このことはまた最高の意味において、霊的な世界においても真理である。……〔何であっても実業や職業において自分の最高の責任に対して不忠実な〕人たちは、その悪事が人目につかない間は、自分はうまくやっているとうぬぼれるかもしれない。しかしそうではない。彼は自分自身を欺いているのである。人生の収穫は品性である。そして現世と来世における運命は実にこの品性によって決定されるのである。

収穫は、まかれた種の繁殖である。それぞれの種は、『その類にしたがって』実をむすぶ。われわれの中に宿っている品性の特徴もその通りである。利己心、おのれを愛する心、自負心、放縦は、繁殖を続けているうちに、ついには、不幸と破滅を招くのである。……愛と同情と親切は、祝福という実を結び、それは滅びることのない収穫となる。」(教育 115, 116)

b.　もし神を地上のすべての事柄にまさって優先するならば、何を刈り取るようになりますか (ルカ 18:29, 30)。

金曜日　4月13日

個人的な復習問題

1. **種はその中に命を持っているにもかかわらず、成長するためには何が必要ですか。霊的な領域において、成長のために何が必要ですか。**
2. **福音の種をまく際に、わたしたちの態度はどうあるべきですか。救い主はこのことに関して、どのように模範を残されましたか。**
3. **もしわたしたちの心の中で良い種が成長しているなら、会話は何についてになりますか。**
4. **からし種は神の御国の成長を、どのように例証していますか。**
5. **朽ちることのない収穫を刈り取るために、わたしたちは何をまく必要がありますか。**

麦の中の毒麦

「ほかの譬を彼らに示して言われた、『天国は、良い種を自分の畑にまいておいた人のようなものである』。」（マタイ 13:24）

「隣人たちからは、全然天国にはいれるとは思われなかった人びとが、多く天国にはいることであろう。人は外の形によって判断し、神は心を評価なさるのである。麦と毒麦とは、収穫までいっしょに生長する。そして、収穫というのは、恵みの時の終わりのことである。」（キリストの実物教訓 50）

推奨文献：　キリストの実物教訓 48 ～ 52

日曜日　*4 月 15 日*

1.　神のみわざ

a.　良い種は、どこにまかれましたか（マタイ 13:24）。

『畑は世界である』とキリストは言われた（マタイ 13:38）。しかし、わたしたちは、これを世界の中にあるキリストの教会を意味するものと解釈しなければならない。このたとえは、神の国と人類を救済する神の働きに関するものであり、これは、教会によって行なわれるものである。たしかに、聖霊は、全世界に行きわたり、いたるところで人びとの心に働かれるのではあるが、わたしたちが熟して、神の倉に収められるようになるのは、教会の中においてである。」（キリストの実物教訓 48）

b.　この世において、神の最高の関心の対象は何ですか（ゼカリヤ 2:8（下句）；エペソ 5:25）。

「わたしはわが兄弟姉妹がたにキリストの教会は、弱く欠点があっても、このお方が地上でご自分の最高の関心を注がれる唯一の対象であることを証する。このお方はご自分の許へ来て救われるようにと全世界に招きをなさるのであるが、このお方は、悔い改めと悔悟のうちにご自分の許へ来る一人びとりの魂に神聖な助けを差し伸べるためにご自分の天使たちを遣わし、またこのお方が個人的に聖霊によってご自分の教会のただ中へ来られるのである。」（牧師への証 15）

2. 敵の働きを妨げる

a. 他にだれが種まきに従事していますか。また、彼は何をまいていますか（マタイ 13:38, 39）。

「毒麦は、あやまり、すなわち虚偽の原則がもたらした実、そのあらわれた結果である。『それをまいた敵は悪魔である。』毒麦の種をまいたのは、神でも天使でもない。毒麦は、常に、神と人類の敵である悪魔がまくのである。」（キリストの実物教訓 48.49）

「主は真に改心した人々を教会へ導き入れられるが、サタンは同時にその交わりの中に改心していない人々を連れ込むのである。キリストが良い種をまいておられる間、サタンは毒麦をまいている。二つの相反する感化力が、教会員に対して絶えず働いている。一方の感化力は教会の清めのために働いており、もう一方は神の民の堕落のために働いている。」（牧師への証 46）

b. 譬の中で敵はいつ働きましたか（マタイ 13:25）。このことから、何を学ぶことができますか。

「み言葉が語られるとき、兄弟がたよ、あなたがたは、自分が献身した神のしもべを通して神のみ声を聞いているのであることを覚えているべきである。注意して聞きなさい。一瞬たりとも眠ってはならない。なぜなら、そのまどろみによって、あなたはまさに自分が最も必要としている言葉―もし注意していれば、まさにあなたの足を悪い道へとそらすことから救うはずのみ言葉―を聞き逃すかもしれないからである。ときどき、若い男女は神の家と礼拝にあまりにも敬神の念がなく、説教の間中ずっと通信している。神の天使が自分たちを見て、自分たちのしていることに注目していることを、彼らが知ったならば、恥ずかしさと、自己嫌悪に満たされることであろう。神は注意深い聴衆を求めておられる。サタンが毒麦をまいたのは人が寝ている間であった。」（教会への証 5 巻 493）

c. 彼の働きをどのように妨げることができますか（テサロニケ第一 5:5–8）。

「もし忠実さと用心深さを維持してきたならば、もしだれの側でも眠りや怠慢がないならば、敵には麦の中に毒麦をまく好機はそれほどなかったことであろう。サタンは決して眠らない。彼は見張っており、自分の代理人を配備し、過ちをまきちらすために、一つ一つの機会を活用し、聖化されていない多くの心のうちに良い土壌を見出すのである。」（同上 3 巻 113）

3. 麦と毒麦が混じりあっている

a. 芽がはえ出たとき、しもべたちは何を見分けましたか（マタイ 13:26）。作物を純粋に保つために、彼らは何を申し出ましたか（27, 28 節）。

「キリストのしもべたちは、教会の中に、真の信者と偽りの信者が混じっているのを見て、心を痛める。彼らは、教会を清めるために、なんとかしなければならないと考える。たとえにある主人のしもべたちのように、今すぐにでも毒麦を引き抜こうと試みるのである。」（キリストの実物教訓 49）

b. 毒麦に関して、主人の命令は何でしたか。それはなぜですか（マタイ 13:29, 30）。

「毒麦の根と良い麦の根がからみ合っているように、偽りの兄弟も、真の弟子とかたく結びついている。そして、これらのにせ兄弟の正体がまだ十分にあらわされていない。もし彼らが教会から除外されるとすると、固く信仰にとどまるはずの者までが、そのためにつまずいてしまうのである。」（同上 50）

「神は、あわれみと忍耐に富んでおられるから、強情な人、不真実な者をも忍耐強く忍ばれる。選ばれたキリストの使徒の中には裏切り者のユダがいた。今日、働き人の中に偽り者がいても、それに驚き、失望すべきではない。人の心を読まれるキリストが、彼が当然裏切り者になることがわかっていてさえ、耐えられたのであれば、わたしたちはどれほどの忍耐をもってまちがっている人々を忍ぶべきであろうか。」（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 479）

c. なぜ主人の指示は、教会における公の罪人をそのままにしておくことを正当化するために用いることができないのですか（マタイ 18:17; コリント第一 5:6, 11, 13）。

「改革者だと公言している民として、神のみ言葉の厳粛で精錬する真理を保存しつつ、わたしたちは現在よりもはるかに高く標準を掲げなければならない。教会における罪と罪人は直ちに処置しなければならない。他の人々が汚されないためである。真理と純潔は、わたしたちが宿営からアカンを清める働きをもっと徹底的になすことを要求する。責任のある立場にある人々は兄弟のうちにある罪を容認してはならない。彼に自分の罪を捨てるか、もしくは教会から離れなければならないことを示しなさい。」（教会への証 5 巻 147）

4. 教会の中で

a. 毒麦から麦を分ける働きは、何を象徴していますか（エゼキエル 9:2–4）。この働きはいつ始まりますか（黙示録 14:9–13）。

「次に、わたしは、第三天使を見た。わたしと一緒にいた天使は言った。『彼の任務は、恐るべき任務である。彼は、麦を天の倉に入れるために、麦を毒麦からよりわけて印をおし、たばねる。われわれは、こうしたことに全身全霊をかたむけ、すべての注意を向けなければならない』。」（初代文集 221）

「裁きの時は最も厳粛な時、主がご自身のものを毒麦の間からお集めになる時である。同じ家族の一員であった者たちが分けられる。印が義人の上に押される。」（牧師への証 234）

「罪と罪人から分離するすべての人々の額に天使が印を押す。そして老若ともにことごとく滅ぼすために、滅びの天使が続くのである。」（教会への証 5 巻 505）

b. 公の罪人でない人々を裁くことができるのは、なぜ神だけなのですか（詩篇 7:9（下句）; 44:21; 箴言 21:2）。

「もしわたしたちがにせクリスチャンであると思う人びとを教会から引き抜こうとするならば、必ずまちがいをするにきまっている。キリストがご自分に引き寄せておられるたいせつな人びとを、わたしたちは全く見込みのない者だと考える危険がある。わたしたちが、自分たちの不完全な判断に従って、これらの魂を扱おうとするならば、おそらく彼らの望みの綱を絶ち切ってしまうことであろう。自分こそクリスチャンであると思っている者の多くが、最後には、量が不足していることに気づくことであろう。」（キリストの実物教訓 49, 50）

c. それぞれの人々の運命が恩恵期間の閉じる前に決定されることを、どの証拠が示していますか（黙示録 22:11）。

「悪人が全部神に立ち帰るときのこないことを明らかに教えている。麦と毒麦とは、収穫のときまでいっしょに育つのである。……

福音の働きが終わると、直ちによいものと悪いものが区別され、それぞれの運命が永遠に決定されるのである。」（同上 101）

木曜日 *4月19日*

5.　　世の中で

a.　何の目的のために、麦は一番最後まで世の中で毒麦と接触するのですか（ペテロ第一 2:9（下句））。

「義人が貴重な穀物のように天の蔵に入れるために束ねられ、一方では悪人が毒麦のように最後の大いなる日の火のために集められる時は、間近である。しかし、麦と毒麦は『収穫まで、両方とも育つ』（マタイ 13:30）。生活の義務を果たしながら、義人は終わりまで不信心な人々との接触に導かれる。光の子らは闇の子らの間に散らされる。それはすべての人によって対比が認められるためである。こうして神の子らは『暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝える』のである（ペテロ第一 2:9）。」（教会への証 5 巻 100）

b.　一番最後に、どの大きな分離が起こりますか（マタイ 13:40–43; 15:13; 24:31）。旧約のどの祭がその時を指し示していますか（レビ記 23:34）。

「仮庵の祭りは、ただ単に記念であるだけでなく、象徴でもあった。それは、荒野の旅をふり返っていただけでなくて、収穫の祭りと同様に、大いなる日の最後の収穫を予表していた。収穫の主は、そのとき、刈り入れ人をつかわして、毒麦をたばねて火に焼き、麦は倉に収める。そのとき、すべての悪人は滅ぼされる。」（人類のあけぼの下巻 184）

金曜日 *4月20日*

個人的な復習問題

1. **わたしたちはどこで自分の信仰のうちに成長すべきですか。また、どのように神はわたしたちのために助けを送ってくださいますか。**
2. **あなたは、自分が教会にいる間に、どのようにサタンがあなたの心の中に毒麦をまくのを阻止することができますか。**
3. **なぜわたしたちは自分の兄弟姉妹に対して長く耐え忍ぶべきなのですか。**
4. **なぜ、わたしたちは自分たちが毒麦だと思う人々を教会から引き抜くことができないのですか。**
5. **光の子らが闇の子らの間に散らされている目的は何ですか。わたしは光のうちに溶け込むでしょうか、あるいは闇でしょうか。**

真理のパン種

「またほかの譬を彼らに語られた、『天国は、パン種のようなものである。女がそれを取って三斗の粉の中に混ぜると、全体がふくらんでくる』。」（マタイ 13:33）

「粉の中に混ぜられたパン種は、目で見ることはできないが、粉全体を発酵させてしまう。そのように、真理のパン種もだれにも気づかれないうちに徐々に魂を変えていくのである。」（キリストの実物教訓 73）

推奨文献：　キリストの実物教訓 70 ～ 76

日曜日　*4 月 22 日*

1.　神の御国にたとえられる

a.　パン種について聖書ではどの意味がありましたか(ルカ 12:1; コリント第一 5:8)。

「パン種は、ユダヤ人の間では、よく罪の象徴に用いられていた。過越（すぎこし）の祭りのときには、心から罪を捨て去るとともに、家の中からすべてのパン種を取り除くように指示されていた。」（キリストの実物教訓 70）

b.　しかしながら、イエスの譬の中で用いられたパン種は、どのように適用されましたか（ルカ 13:20, 21）。

「救い主のこのたとえにおいては、パン種は天国を代表するために用いられている。それは、神の恵みの人を生かす力、同化する力を説明しているのである。

どんなに 汚れ、堕落した人であっても、この力の及ばないところまで落ち込んではいない。どんな人でも、聖霊に服従するならば、新しい生命の原則が植えつけられ、失われた神のみかたちが人類の中に回復されるのである。」（同上 71）

2. キリストにとらえられる

a. 神はわたしたちの生活をどのように変えたいと望んでおられますか。またそれは何の目的のためですか（ローマ 12:2; ピリピ 2:5）。

「すべての真の改革は魂の清めをもって始まる。変化が人生に起こるのは、再生の洗いと聖霊の働きを通して思いが新たにされることによってである。……

もしわたしたちがもっと自分たちの思いにキリストと天の世界を考えるようにさせるならば、主の闘いをたたかう際に、力強い刺激と援助を見出すはずである。世の誇りと愛着は、わたしたちがまもなく自分たちの家郷になるより良い地の栄光を熟考するとき、力を失う。キリストの麗しさを除いては、すべての地上の呼び物はほとんど価値がないように見えてくる。」（神のむすこ娘たち 105）

「わたしたちがキリストに結びつくとき、キリストの思いを持つ。純潔と愛が品性のうちに輝き出て、柔和と真理が人生を支配する。表情そのものが変わる。

魂のうちに宿っておられるキリストは変化させる力を発揮し、外面はうちに宿る平和と喜びに対して証を担う。」（キリストを映して 104）

b. 神はどのようにわたしたちの思想を変えようと望んでおられますか（コリント第二 3:18; ピリピ 2:3, 4）。

「キリストを眺めることによってわたしたちは変えられる。もし思いが一時的な事柄を絶えず考えているならば、これらの事柄がすべてを飲み尽くし、品性に影響し、こうして神の栄光が見失われ、忘れられてしまう。天の事柄に精通するための彼らの手に届く機会が見過ごされる。霊的な命は死ぬ。」（神のむすこ娘たち 105）

「キリストの知識―このお方の言葉、このお方の習慣、そしてこのお方の教えの教訓―を得ることによって、わたしたちは緊密に研究してきた品性の徳を取り入れ、わたしたちがこれほど感嘆してきた精神を吹き込まれるようになる。」（同上 235）

「わたしたちは、キリストを日々の友とするとき、見えざる世界の力に囲まれているのを感じ、イエスを見つめることによってそのみかたちに似た者となるのである。見ることによってわたしたちは変えられる。 品性は天のみ国にふさわしく和らげられ、きよめられ、高められる。」（祝福の山 104）

3. 心の移植

a. 真理のパン種はいつ働き始めますか（エレミヤ 29:13）。神はどこからお始めになりますか（エレミヤ 24:7; エゼキエル 11:19）。

「パン種が、粉の中に混ぜられるとそれが内部から働き出すように、神の恵みが、人の生活を変化させるのは、心を新たにすることによってである。単なる外的変化だけでは、わたしたちを神と調和させるのに不十分である。人びとは、種々の悪習慣を改め、心を入れかえて、クリスチャンになろうと望むのであるが、それでは、出発点が誤っているのである。まず始めるべきところは、心なのである。」（キリストの実物教訓 71）

「私たちは全身をささげて神に従わねばならない。さもなければ、私たちを神のみかたちに回復する変化は起らないのである。」（キリストへの道 53）

「あなたの全存在―魂、体、そして霊―を主のみ手のうちに置きなさい。そしてこのお方の愛する献身した代理人、このお方のみ旨によって動き、このお方の思いによって支配され、このお方の御霊によって満たされるものとなることを決心しなさい。」（神のむすこ娘たち 105）

b. 心のうちでパン種がどのような工程で働くかを述べなさい（ヨハネ 3:3–5）。

「真理が生活の中の不動の原則になるとき、魂は『朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変ることのない生ける御言によ』って『新たに生れ』る。この新生は、キリストを神のことばとして受け入れた結果である。聖霊によって神の真理が心に刻まれると、新しい思いが喚起され、これまで眠っていた力が呼びさまされて神と協力する。」（患難から栄光へ下巻 219）

「イエスが、新しい心についてお語りになるとき、精神と生活すなわち全体のことを言っておられるのである。心を入れかえることは、世俗に向けられていた愛情をひっこめて、これをキリストに結びつけることである。新しい心を持つことは、新しい精神、新しい目的、新しい動機を持つことである。では、新しい心のしるしはなんであろうか。それは生れかわった生活である。そこには、日々に、時々刻々に、利己心と高慢に対する死がある。……

新しい心をあたえられた者は、けんそんにそして感謝に満ちた信頼心をもってキリストの助けに寄り頼む。彼の生活の中には、義という実が現われる。彼はかつては自分自身を愛した。世俗的な快楽を楽しんだ。しかしいま彼の偶像は退けられ、神が最高位にあって統治しておられる。かつて愛した罪をこんどは憎むようになる。断固として聖潔の道を歩むようになる。」（青年への使命 62）

4. 変化させるもの

a. 神が品性を変化させるのにお用いになる手段の一つは何ですか（ローマ 10:17; ヨハネ 17:17）。

「真理のパン種は、人を全く一変させて、荒々しい人を洗練し、粗野な人を柔和にし、利己的な人を物おしみしない人にする。不純なものは清められ、小羊の血によって洗われる。心と魂のすべての能力が、パン種の生命力によって、神の生命と調和するのである。人性をもった人間が、神の性質にあずかるものとなる。こうして人間が、すぐれた完全な品性をもつようになって、キリストがあがめられることになる。こうした変化が起こるとき、天使は賛美の声をあげ、神とキリストは、彼らが神のかたちにかえられたことを喜ばれるのである。」（キリストの実物教訓 76）

「もし研究し、従うならば、神のみ言葉は心のうちに働き、すべての聖くない特質を征服する。聖霊が罪を自覚させ、心のうちにわきおこる信仰がキリストへの愛によって働き、わたしたちの体、魂、霊をこのお方のみ旨へ順応させる。」（天国で 21）

b. 聖霊はどのように人生において働き、変化を及ぼしますか（ヨハネ 3:8）。これは粉の中のパン種の働きとどのように比較されていますか。

「粉の中に混ぜられたパン種は、目で見ることはできないが、粉全体を発酵させてしまう。そのように、真理のパン種もだれにも気づかれないうちに徐々に魂を変えていくのである。生まれながらの傾向が、なごやかにしずめられる。 新しい思想、新しい感情、新しい動機が植えつけられる。キリストの生涯が、新しい品性の標準になる。精神は 一変し、その人の能力は、新しい方向に向かって行動を起こす。これは、何も新しい能力が与えられるのではなくて、すでに持っている能力が清められるのである。良心がめざめる。こうして、神のために奉仕するにふさわしい品性の特質が与えられるのである。」（キリストの実物教訓 73）

c. わたしたちの変化した生涯において、何がわたしたちの決定を導きますか（ヨハネ 8:29）。

「あらゆる義の本質は、わたしたちのあがない主に対する忠誠である。この忠誠心が、わたしたちに、正しいことであるからという理由で正しい行ないをさせ……るのである。」（同上 72）

木曜日　4月26日

5.　人生においてパン種が働く

a.　神の御国の基本的な特質は何ですか（ヨハネ第一 4:10; ヨハネ 3:16）。

「われわれは、キリストのことを瞑想するときに、広大無辺の愛の岸辺をさまようのである。われわれは、この愛について語ろうとするが、ふさわしい言葉がでてこない。キリストの地上の生涯、われわれのための犠牲、われわれの仲保者としての天における働き、そして、主を愛する者のために備えておられる住居のことを考えて、われわれは、ただ、キリストの愛は何と高く、何と深いことだろうと叫ぶことしかできない。」（患難から栄光へ下巻 13, 14）

b.　この特質は、わたしたちが他人を扱う際にどのように現れますか（ヨハネ 13:34; ヨハネ第一 4:11; コロサイ 3:12）。

「わたしたちは自己を忘れて、いつも……他の人々を元気づけ、優しい親切や小さな愛の行為によって彼らの悲しみや重荷を軽くし、和らげる機会を見張っているべきである。これらの思いやりのある礼儀は、わたしたちの家庭において始まり、家庭の輪の外へ広がり、人生を幸福にする助けとなるのである。」（今日のわたしの生涯 192）

「キリストが地上に滞在しておられた一刻一刻に神の愛はおさえることのできない流れとなってキリストから流れていた。キリストのみたまを吹きこまれる者はみなキリストが愛されたように愛するのである。キリストを動かした原則がお互いの間における彼らの態度の動機となるのである。」（各時代の希望下巻 167）

「もしキリストがわたしたちの中に住んでおられるならば、日常接するすべての人にその無我の愛をあらわすはずである。」（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 136）

金曜日　4月27日

個人的な復習問題

1. **救い主の譬の中のパン種によってどの力が示されていますか。**
2. **もしわたしたちの思想がキリストと天によって占められているならば、この変化はわたしたちの霊的な経験にどのような効果を及ぼしますか。**
3. **なぜ本物の生活の変化は、パン種のように、中から外へ働くのですか。**
4. **真理のパン種がわたしたちを変化させるいくつかの方法は何ですか。わたしたちの自然の傾向に何が起こりますか。この変化は何を意味していますか。**
5. **わたしたちはどのように他の人々へキリストの愛を表すことができますか。**

第一安息日献金

世界のミッションのために

世界中の親愛なる兄弟姉妹がたへ、わたしたちは地球の歴史の終末時代に生存しており、わたしたちの主は長い間、わたしたちを家へ連れて帰りたいと切望し、待ってこられました。預言的な出来事がわたしたちの眼前で明らかにされ、イエスの再臨が近いこと、まさに門口に来ていることを告げています。残念なことに、福音のメッセージはまだ地の果てにまで届いておらず、すべての被造物が真理を聞く機会を得ていません。「人はまもなく大きな決心を強いられるようになる。であるから、彼らは自分たちの立場を知的に正しい側におくことができるように、聖書の真理を聴いて理解する機会がなければならない」(伝道 25)。

キリストの体の肢体として、このお方のご品性を表し、わたしたちの時間、力、そして資金をこの特別な働きに委ねることによって、全世界を通じて福音を広めることに参加することは、わたしたちの特権です。わたしたちの教会員や友人たちの祈りと資金的な寄与により、新しいミッションが多くの地方で設立されつつあります。これらの新しいミッションはなお、彼らがしっかりと確立し、自援できるようになるまで、わたしたちの援助を必要としています。またその一方、新しい伝道地が開かれつつあります。毎年、祈祷週の時に、地球の多くの地域へメッセージを広めるのに必要な資金を満たすために特別献金を集めています。「この時代、すべての都市に、そして地上の遠隔地に現代の真理の代表者がいるべきである。全地は神の真理の栄光で明るくされるべきである。光があらゆる地とあらゆる民を照らすべきである。そして輝き出るのは、光を受けた人々からであるべきである」(同上 407)。「まだほとんど入っていない畑に伝道者が必要とされている。新しい伝道地が絶えず開かれている。真理は様々な言葉に翻訳されなければならない。こうしてすべての国民が純粋で命を与える感化を享受することができるためである」(同上 409)。この安息日、みなさんに自分の資金から惜しみなく捧げることによって、伝道者やその家族の努力と自分の努力を一致させて下さるよう、心よりお願いいたします。この方法によって、わたしたちが共に神の栄光で地を明るくし、イエスの来臨を早めることができます。

世界総会伝道支部の皆さんの兄弟より

取税人とパリサイ人

「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。」（コリント第一 10:12）

「高慢とうぬぼれほど神がおきらいになるものはなく、また人の魂を危険にさらすものはない。あらゆる罪の中で、これほど絶望的でどうにもならないものはない。」（キリストの実物教訓 134）

推奨文献：　キリストの実物教訓 130~144

日曜日　*4 月 29 日*

1.　宮で礼拝する

a.　二人の礼拝者の譬を語られたイエスのご目的は何でしたか（ルカ 18:9）。

「わたしたちが罪をゆるされ、平和を与えられるためには自分を知らなければならない。つまり、わたしたちを悔い改めに至らせる知識がなければならない。……キリストは罪人であることを自覚した人だけをお救いになれるのである。……わたしたちは、自分たちの真の状態を知らなければならない。そうでなければ、キリストの助けが必要なことを感じないことであろう。わたしたちは、自分たちの危険について知らなければならない。そうでなければ、避難所にのがれることもないことであろう。わたしたちは自分たちの傷の痛みを感じなければならない。そうでないと、いやしを求めないことであろう。」（キリストの実物教訓 137, 138）

b.　譬の中で述べられた二人のひとを描写しなさい（ルカ 18:10–13）。

「パリサイ人と取税人とは、神を礼拝するために来る二種類の人を代表している。そして、その人びとを、この世界に生まれてきた最初の二人の子供たちがよく代表している。カインは、自分を義であると考え、感謝のささげ物をもってきただけであった。カインは、罪の告白をしなかった。彼はあわれみの必要も認めなかった。ところが、アベルは、神の小羊を予表した血をもってきた。アベルは、自分が罪人であり、失われた人間であることを認めて神のところにきた。彼の何よりも望んだものは、なんのいさおしもなくして与えられる神の愛であった。」（同上 132）

2. 神がご覧になる状況

a. 宮で礼拝していたふたりの人について、イエスはどのように結論づけられましたか（ルカ 18:14（上句））。

「義認されるためには、罪人はキリストの功績を自分の魂に適用する信仰を持たなければならない。わたしたちは悪魔が『信じておののいている』ことを読む（ヤコブ 2:19）。しかし、彼らの信仰は彼らに義認をもたらすことがなく、また単に聖書の真理に知的に同意している人々の信仰も彼らに救いの恩恵をもたらすことがない。この信仰は命にかかわる点にまで至らない。なぜなら、真理は心に関与せず、また品性を変えもしないからである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 3 巻 191, 192）

b. パリサイ人は自分自身について、何を認めませんでしたか（ローマ 3:10–12）。わたしたちはどのように同じ過ちを犯すかもしれませんか。

「パリサイ人は礼拝をするために宮に上るが、それは自分がゆるしを受けなければならない罪人であることを認めたからではなく、自分をただしいと思い、神の賞賛を受けようと思うからである。彼は、自分の礼拝を、何か神の前に自分をよく思われるようにする行為でもあるかのように考える。」（キリストの実物教訓 130）

「多くの人々は自分の心の状態に関して欺かれている。彼らは生来の心が、よろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっていることを悟らない。彼らは自らを自分自身の義で覆い、自分自身の人間の品性の標準に達して満足している。しかし、彼らが神聖な標準に達しないとき、彼らはなんと致命的に失敗していることであろう。そして自分自身では、神の要求に見合うことはできないのである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 320）

c. この譬からイエスはわたしたちに、どの全般的な原則をお教えになりますか（ルカ 18:14（下句）；ペテロ第一 5:6; ヤコブ 4:10）。

「兄弟方よ、自らをへりくだらせよ。あなたがそうするとき、聖天使たちはあなたと通信し、あなたがたを有利な地に置くことができる。そのとき、あなたがたの経験は、欠陥のあるものになる代わりに、幸福に満ちたものとなる。」（この日を神と共に 35）

「神は、悔悟が謙遜を生まない人には許しをお与えにならない。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 938）

3. 取税人の態度を持つ

a. 神は取税人の態度をどのようにご覧になりますか（詩篇 51:17; 102:17）。

「自分を義とする精神に動かされての断食や祈りは、神の御目に憎むべきものである。荘厳な礼拝の集り、宗教的儀式のくりかえし、外面的な苦行、強制的な犠牲などは、こうしたことを行なう人が自分自身を義とし、天国にはいる資格があるとみなしていることを公告している。しかしそれはまったくの欺瞞である。われわれは自分自身のわざによって救いを買うことは決してできない。……

人は、最高の意味において、イエスを信じる者となることができる前に、自分自身をむなしくしなければならない。自我が放棄されるとき、主はその人を新しい人間にすることがおできになる。」（各時代の希望上巻 356, 358）

b. 取税人のように、許しと平安を持つためには、どの経験を持つ必要がありますか（ヨハネ第一 1:9; エレミヤ 3:13）。

「この自己否定は、クリスチャン生活の出発において行なうばかりでなくて、天に向かって前進するごとに、新たにしなければならないものである。わたしたちの行なう善行は、すべて、わたしたちの外からの力によるものである。であるから、常にはげんで神を仰ぎ、たえず、心をくだいて罪を告白し、神のみ前に心をひくくする必要がある。 わたしたちは、絶えず自己を捨て、キリストにたよることによってのみ、安全に歩くことができる。」（キリストの実物教訓 140）

c. 取税人の祈りについて、何が違っていたのですか（エレミヤ 29:12, 13）。

「二種類の祈りがある―形式の祈りと信仰の祈りである。心が神の必要を感じていないときに、決まった習慣的な言葉の一式を繰り返すのは、形式的な祈りである。……わたしたちはすべての祈りにおいて、心の願いを語り、本気で思っていることだけを話すように非常に気をつけるべきである。意のままに飾り立てた言葉はみな、一つの聖なる願いに匹敵しない。最も雄弁な祈りは、心の真の思いを表現していないならば、虚しい繰り返しにすぎない。しかし、真剣な心から出る祈り、答えてくれると期待して地上の友に何かをお願いするように、魂が単純な求めを表現するとき、これこそ信仰の祈りである。」（わたしの今日の生涯 19）

4. パリサイ人の落とし穴を避ける

a. 自分たちが罪人であることを認めない人々にとって、何が危険ですか（黙示録 3:16, 17; ルカ 5:31, 32）。

「なにか大きい罪を犯したものは自ら恥じ入り、卑しさを感じ、キリストの恵みの必要を感じるが、高慢なものはなんの必要も感じないため、キリストに対して心を閉じてしまい、キリストが来られて、与えようとなさる無限の祝福を受けることができないのである。」（キリストへの道 35）

「わたしはわが兄弟方に今、自らをへりくだらせ、自分の罪を告白せよ、さもなければ神があなたがたをへりくだらせるであろうと言うように任じられている。ラオデキヤ教会へのメッセージはそれを自分にあてはめない人々の胸を突くのである。」（著者と編集者への勧告 99）

b. この種の霊的な誇りとしばしば対になっているものは何ですか（詩篇 12:3）。ここにどの危険がかかわっていますか（箴言 26:28（下句）; 29:5）。

「誇りとうぬぼれを助長するものは、ことごとく避けなければならない。であるから、お互いにへつらったり、ほめそやしたりすることがないように注意すべきである。へつらうことは、サタンのすることである。サタンは責め訴えることと同様にへつらうこともする。こうして、魂を滅ぼそうとしている。だから、人を称賛する者は、サタンに使われている手下である。キリストのために働く者は、自分をほめることばを避けなければならない。自己を見えないところにしまおう。ただキリストのみを称賛すべきである。」（キリストの実物教訓 142）

c. かつてはイスラエルにおける誇り高い指導者であったパウロは、その経験がどのように変わりましたか（ピリピ 3:6–9; ローマ 7:9; ガラテヤ 6:14）。

「人がおきてを外的生活にあてはめ、おきてを字義的に解釈すれば、〔パウロ〕は罪を犯していなかったと言えるのである。しかし、その聖なる条文の深い精神を見つめ、神がご覧になるように自らを見つめたとき、心へりくだってみ前に伏し、自らの罪を告白したのである。」（キリストへの道 33.34）

「イエスのみ許へ近づくほど、わたしたちはこのお方のご品性の純潔と偉大さをますますはっきりと見るようになり、自己を高める気持ちがますますなくなる。わたしたちの品性とこのお方のご品性の対比が魂の謙遜と深い心の吟味へ導く。イエスを愛するほど、ますます完全に自己はへりくだり、忘れられてしまうのである。」（上を仰いで 46）

木曜日 *5月3日*

5.　　わたしたちの生涯において謙遜を実践する

a.　イエスはご自身の生涯において、どのように謙遜を表されましたか（ピリピ 2:5–11）。

「人の子は神のしもべとなられるためにご自身をへりくだらせた。このお方は、ご自分を信じる人々に自由と命、ご自分の御国における場所を授けるために、死に至るまで低くなり、自己犠牲に服された。このお方は多くの人々の贖い代としてご自分の命をお与えになった。このことは、たえず一番になろうとし、最上位のために奮闘する人々に、自分のとる道を恥じさせるのに十分なはずである。」（この日を神と共に 356）

b.　そのとき、キリストはわたしたちに何を要求なさいますか（ルカ 9:23）。へりくだる人々にどの祝福が約束されていますか（ルカ 18:14（下句）；ペテロ第一 5:6; ヤコブ 4:10）。

「キリストを信じ、このお方と共に謙遜に歩む人々、……他の人の魂を助け、祝福し、強めるためにできることをいつも探して見張っている人々は、救いを受け継ぐべき人々に奉仕する天使に協力しているのである。イエスは彼らに恵み、知恵、そして義をお与えになり、彼らに接触するすべての人々にとって、彼らを祝福とする。彼らが自分自身の評価においてへりくだるほど、ますます神から多くの祝福を受けるのである。なぜなら、受けることが彼らを高ぶらせることがないからである。彼らは自分の祝福を正しく用いる。なぜなら、彼らは与えるために受けるからである。

奉仕する天使たちは人間の器と協力するために神のみ座から指示を受ける。彼らは人類に与えるためにキリストの恵みを受けるのである。」（同上）

金曜日 *5月4日*

個人的な復習問題

1. **なぜキリストは自分が罪人であることを知っている人々のみを救うことがおできになるのですか。**
2. **なぜあなたは教会へ来るのですか。**
3. **わたしたちはどのように祈るべきですか。**
4. **わたしたちはどのように霊的な誇りを克服することができますか。**
5. **神はなぜ、へりくだる人々にご自分の祝福をお委ねになることができるのですか。**

放蕩息子

「このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。」（ルカ 15:24）

「堕落した人類への御父の愛は測りがたく、言い尽くせず、比類がない。」（神の驚くべき恵み 79）

推奨文献：　キリストの実物教訓 179 ～ 191

日曜日　*5月6日*

1.　この世の娯楽という魅力

a.　譬はしばしばいくつかの適用を持つにもかかわらず、放蕩息子の譬は特別にどの階級にあてはまりますか（ルカ 15:1, 2）。

「放蕩むすこのたとえでは、かつては天の父の愛を知っていたにもかかわらず、敵の誘惑のとりこになっている者に対する神のお取り扱いが示されている。」（キリストの実物教訓 179）

b.　世に誘惑されたとき、弟はどのような要求をしましたか。そして父は何をしましたか（ルカ 15:11, 12）。

c.　自由について弟の愚かな考えの結果は何でしたか（ルカ 15:13, 14; エレミヤ 17:5, 6）。この物語から、わたしたちは利己心について何を学ぶことができますか。

「外観がどんなものであろうと、自己を中心にしている人の生活は、浪費である。だれでも神を離れて生きようとするならば、自分の財産を浪費するのである。すなわち貴重な年月を浪費し、思いと心と魂の力を浪費し、自分を永遠の 破産者にしようとしている。自分を満足させるために神から離れていくものは、富のどれいである。」（同上 181）

2. 世俗の娯楽の空しさ

a. どの状況が発達しましたか。またこのかつては良く育まれていた青年は何をしなければならなくなりましたか（ルカ 15:15, 16）。

「そこへひどいききんが起こって、〔譬の青年〕は食べることにも困り始め、その地方のある人に身を寄せたところ、その人は、彼を畑にやって豚を飼わせた。ユダヤ人にとって、これは、最も卑しく下等な職業であった。自分の自由を誇っていた青年は、今や、自分がどれいになってしまったことをさとった。彼は『自分の罪のなわにつながれる』最悪のどれいであった（箴言 5:22）。

彼の心を夢中にさせていた世の華麗さは、消え去って、鎖の重さを身に感じるようになった。」（キリストの実物教訓 180）

b. 彼の痛みを伴う屈辱的な経験の結果、この放蕩息子はどのように聖霊の力に応じましたか（ルカ 15:17–19）。

「青年は、豚の群れと豆がらをあとにして、家路に向かう。弱り果ててふるえ、飢えのために気も遠くなりながら、彼は、ひたすら家路を急いでいく。今は彼のぼろをおおいかくすものは何もないが、あまりにもみじめなので、恥も外聞もあったものではない。かつては、子であったところへ、召使の地位を求めるために急いでいくのである。」（同上 183）

c. ソロモンは自分の生涯のほとんどを、富と世俗の娯楽のうちに幸福を追い求めるのに費やした後で、どの教訓をわたしたちに残していますか（伝道の書 2:4–12, 17, 18）。

「ソロモンは自分のにがい経験を通して、物質に最高の幸福を求める人生がどんなに空虚なものであるかを知った。 彼は異教の神々に祭壇を築いたが、それらの神々の約束する魂の平安がどんなにむなしいものであるかを知っただけであった。

晩年になって、疲れ果てたソロモンは、この世のこわれた水おけにかわきをいやすことができなくなって生命の泉に水をもとめて立ち帰った。彼は聖霊の感動によって後世の人々のために、自分のむなしく過ごした年月の歴史を警告の戒めとともに書きしるした。こうして、ソロモンのまいた種は、悪の収穫となってイスラエルの民に刈りとられたが、しかし彼の一生の働きは全く滅びてしまったわけではなかった。苦難の鍛練が彼のために、ついに効果をあらわしたのであった。」（教育 172, 173）

3.　父の愛の現れ

a.　放蕩息子が自分の信仰を行動に移したとき、家に近づくにつれて何を見出しましたか（ルカ 15:20, 21）。

「放蕩むすこは、かつての落ちつかない若者だったときには、父親を厳格で恐ろしい人のように考えていた。ところが今は、その考えがなんと変わったことであろう。」（キリストの実物教訓 184）

b.　父親は自分の誤りに陥っている息子のためにいつも感じてきた愛と関心をどのように表わしましたか（ルカ 15:22–24）。

「父は、他人が軽べつの目でぼろをまとったむすこのあわれな姿をあざわらうことを許さない。父は、自分の肩から、巾広いりっぱな上衣をぬいで、むすこのやつれたからだにかけてやる。すると青年は、悔い改めの涙にむせんで、『父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません』といったが、父はむすこをしっかりと抱いて、家へ連れてはいった。召使の地位を求めることばをいう機会はなかった。彼は、むすこなのである。家の最上のものをもって優遇しなければならない人である。そして、召使や女中たちが尊敬して仕えなければならない人なのである。」（同上 184）

c.　今日、失われた一人の魂がご自分の許へ戻ってくるとき、わたしたちの天父の喜びはどれほど大きいですか（ゼパニヤ 3:17）。このお方はどのようなご命令を出されますか（ゼカリヤ 3:4, 5）。

「〔贖いの計画〕を通して、罪人は自分の罪が許され、最終的に天に受け入れられる。それは、赦免され、釈放されたが、なお疑いをもって見られ、友情や信頼に入れてもらえない勘弁された犯罪人としてではない。子として歓迎され、最高の信頼へと連れ戻されるのである。……

わたしたちは、神がキリストの血で買われたものを愛されるがゆえに救われるのである。そしてこのお方は悔い改めた罪人を許されるだけではない。彼が天に入ることをお許しになるだけではない。かえって、憐れみの御父はわたしたちを歓迎し、祝福された者の住まいに入れるために、天の門で待って下さるのである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 950）

4. 罪人に対する御父の愛

a. 罪人が神のみ許へ戻るとき、天の万軍の態度はどのようなものですか（ルカ 15:7）。

「天父の愛がしみのない神の小羊の功績を通して変えられた、悔い改めた罪人を抱くまで、わたしたちの天父は満足なさらないことを、堕落した人類は学ばなければならない。」（神の驚くべき恵み 99）

b. 人類に対する神の愛はどれほど深いですか。またそれはこのお方が何をするように導きますか（エレミヤ 31:3; ヨハネ 3:16; 12:32）。

「罪人がまだ父の家から遠く離れた異国で財産を浪費しているとき、父の心はその子の身の上を案じておいでになる。そして神へ帰りたいという気持をかれの心に起させるのはみな、聖霊のやさしい訴えの声であって、さ迷いいでた者へ熱心に話しかけ、哀願し、父なる神の愛の心に引きつけようとしておられるのである。

聖書には、こうしたみ約束がたくさんあるのだから、疑う余地はどこにもない。あわれな罪人が帰りたいと思い、罪を捨てたいと願っているのに、主はかれが罪を悔いて主の足もとに来るのを拒まれると考えられるであろうか。決してそのようなことを考えてはならない。天の父はそのような方であると考えることほど、魂を傷つけるものはない。神は、罪を憎まれるが罪人を愛される。神がキリストをお与えになったことは、ご自分をお与えになったことであった。そして望む者はだれでも救われ、栄光のみ国で限りない祝福にあずかることができるようにしてくださったのである。」（キリストへの道 70, 71）

c. 神は今日、わたしたちが自分自身の生活の中でこの愛を表すことをどのように望んでおられますか（ヨハネ第一 4:20, 21）。

「永遠の愛という天の原則が心を満たすとき、それは他の人々にあふれ出る。単に彼らから行為を受けるからではなく、愛が行動の原則であり、品性を形づくり、衝動を治め、感情を支配し、敵意を征服し、愛情を高めて高尚にするからである。この愛は『わたしとわたしのもの』を含むことだけを約束するのではなく、世界のように広く、天のように高く、働く天使の愛と調和している。魂の中に抱かれるこの愛は、全生涯を麗しくし、あたり一面に精錬する感化をふり注ぐ。」（教会への証 4 巻 223, 224）

木曜日　5月10日

5.　自己義への警告

a.　自己義認の兄にとって、最大の関心事は何でしたか（ルカ 15:29, 30）。彼はどの種類の人々を表していますか。

「この兄は、キリストの時代の悔い改めないユダヤ人を代表していた。そして、また、いわゆる取税人や罪人を軽べつするところの各時代のパリサイ人をもさしている。彼らは、自分たちが、ひどい罪におちいっていないといって、自分を義とする精神に満ちている。……たとえの中の兄のように、彼らは、神からの特別の特権にあずかっていた。彼らは、神の家の子であるととなえてはいたが、実は雇い人の精神をもっていた。彼らは、愛の動機からではなくて、報酬を望んで働いていた。」（キリストの実物教訓 189）

b.　兄に対する父の訴えは何でしたか（ルカ 15:31, 32）。

「たとえの中で、父が兄をいさめたことは、パリサイ人に対する天のやさしい訴えのことばであった。『わたしのものは全部あなたのものだ』（ルカ 15:31）。それは報酬ではなくて、たまものである。それは、放蕩息子と同じようにしてもらえるものである。わたしたちもなんの功績もなく、天の父の愛のたまものとしてのみ、受けることができるのである。

自分を義とすることによって人は、神を誤り伝えるばかりでなくて、兄弟を冷たく批判するようになる。利己的でしっと深い兄は、ことごとに弟に目をつけて、その行動を批判し、ほんのさ細なことまで非難した。兄は、あらゆるあらさがしをして、責めとがめた。こうして、兄は彼が許し得ないことを正当化しようと努めた。今日も同じことをしているものがたくさんいる。魂が、人生における最初の誘惑の大水の中で苦闘しているのを、彼らは、かたくなな態度でかたわらからながめて、つぶやき責める。」（同上 189, 190）

金曜日　5月11日

個人的な復習問題

1.　放蕩息子の譬によってどの教訓が与えられていますか。
2.　罪の生涯は、どのように現実には奴隷の生涯なのですか。
3.　神はご自分に戻る罪人を、どのようにお受入れになりますか。
4.　御父は、どのように罪人をご自身に引き寄せられますか。
5.　わたしたちはどのようにしてこの譬の中の兄のようになるかもしれませんか。

いちじくの木

「あなたがたに言うが、そうではない。あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう。」（ルカ 13:5）

「主はだれも滅びることなく、すべての人がご自分のみ許へ来て救われることを望んでおられる。しかし、このお方の愛に満ちた親切が、魂をやわらげ征服する代わりに、このお方の愛と憐れみの対象となっている多くの人々は、ますます頑固な抵抗へと助長されるのである。ああ、人々が神の寛容に限度があることを覚えていればよいのだが！」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897 年 12 月 7 日）

推奨文献：　キリストの実物教訓 192 ～ 198

日曜日　*5 月 13 日*

1.　譬のための動機

a.　エルサレムで最近起こったばかりのどの出来事が、いちじくの木の譬を提示する動機となりましたか（ルカ 13:1）。

「聴衆は、つい先ごろ、大きな騒ぎをひき起こした事件をイエスに告げた。ユダヤの総督ピラトのとった処置が人びとを怒らせた。エルサレムに民衆の暴動が起こり、ピラトは暴力によってこれを鎮圧しようとした。あるときなどは、ピラトの兵卒たちが神殿の境内におしいり、犠牲をほふっていたガリラヤの巡礼者たちを数人切り殺したことがあった。」（キリストの実物教訓 192, 193）

b.　ユダヤ人は不幸を罪のための刑罰として見ていたことを、何が示していますか（ルカ 13:2, 4）。

「ユダヤ人は、この災難を、被害者たちの罪に対する天のさばきとみなした。この暴力行為について語ったものらも心ひそかに満足感をいだいてこう言った。自分たちの幸運は、彼らがガリラヤ人よりすぐれていて、ガリラヤ人より多く神のめぐみを受けている証拠であると考えた。」（同上 193）

2. 警告と嘆願

a. イエスはご自分の答えに関連して、どの警告と嘆願をなさいましたか（ルカ 13:3–5）。

「イエスは、弟子たちと群衆に向かって語っておられたとき、預言的な眼をもって将来を見、軍勢に包囲されたエルサレムを見ておられた。イエスは選ばれた町に向かって進軍する外国人の足音を聞き、包囲攻撃をうけて幾千のものが死んでゆくのをごらんになった。多くのユダヤ人が、あのガリラヤ人たちと同じように、犠牲をささげている最中に、神殿の庭で殺された。個人にのぞんだ災難は、同様に罪深い国家に対する神よりの警告であった。『あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう』とイエスは仰せになった。彼らのために猶予の日がしばらく与えられていた。彼らが平和をもたらす道を知るときが、彼らのためになおのこっていた。」（キリストの実物教訓 193, 194）

b. イエスの教えの中で、何を裁きの警告と結合されましたか（ルカ 9:56; ヨハネ 3:17）。

「キリストは、お教えになったとき、審判の警告とめぐみの招待とを結合なさった。」（同上 192）

c. 神は今日、わたしたちにどの嘆願をしておられますか（エゼキエル 18:31; 33:11）。

「再生こそわたしたちが聖都へ到達できる唯一の道である。それは狭く、わたしたちが入ろうとする道は細い。しかし、そこに沿ってわたしたちは男女や子供に救われるためには新しい心と新しい精神を持たなければならないことを教えつつ、導かなければならない。古い遺伝的な品性の特質は克服されなければならない。魂の生来の願望は変えられなければならない。あらゆる欺瞞、あらゆる偽証、あらゆる悪口は捨て去らなければならない。新しい命、すなわち男女をキリストに似た者とする命を生きなければならない。わたしたちは、言わば悪の潮流に逆らって泳がなければならないのである。」（この日を神と共に 108）

「主は、滅ぼすことではなくて、救おうと努めておられる。主は罪人を救うことを喜ばれる。『わたしは生きている。わたしは悪人の死を喜ばない』（エゼキエル 33:11）。彼は警告と嘆願とによって、心のかたくなな人々が、彼らの悪い行いを離れて神に帰り、生きるように呼びかけておられる。」（国と指導者上巻 76）

3. 象徴的な木

a. イエスはご自分の警告と嘆願を確認するために、どの譬を聴衆に語られましたか（ルカ 13:6, 7）。実のならない木は、どの意味において、ちょうどユダヤ国家を表していましたか（ホセア 10:1）。

「イスラエルは空しいぶどうの木で、自分自身のために実を結ぶ。その実を多く結ぶにしたがって、祭壇を増し、その地の豊かなるにしたがって、麗しい像を作った。」（ホセア 10:1 英語訳）

「キリストの時代の人々は、彼らの時代の前のユダヤ人よりもはるかに敬けんな態度を示していた。しかし彼らは神のみ霊の美しい徳性にはさらに欠けていた。……

神はみ子をつかわして、実を求められたが、何も見いだされなかった。イスラエルは地をふさぐものであった。それが存在するということはのろいであった。ぶどう園の実りの多い木が占めるべき場所をそれがふさいでいたからであった。それは神が与えようとされた祝福を世から奪った。イスラエル人は国々の中に神を誤って表わした。彼らは 単に無用であるばかりか、明らかにじゃま物であった。彼らの宗教の大半は、人を迷わせ、救うどころかかえって破滅に陥れるものであった。」（キリストの実物教訓 195）

b. 彼らの失敗の責めは、まさに彼ら自身の戸口にあることを、何が示していますか（使徒行伝 7:51–53）。

c. わたしたちもまた、どのように実のないいちじくの木のようになるかもしれませんか（ヨハネ 15:4, 5）。

「見せかけだけのいちじくの木のように、わたしたちは葉に覆われながら、実に欠けているかもしれない。わたしたちは自分たちの奉じている真理が永遠の丘のように堅固なものであることを知っているが、わたしたちのうちどれほどの人が、キリストが自分たちのうちにおられ、自分たちがキリストのうちにいるという証拠がないまま、すぐに真理の理論に落ち着いてしまうことであろう。どれほど多くの人々が満足して、毎日毎日、真理の聖化する感化力、すなわち良いわざに導く感化力を心に感じることなくやりすごしてしまうことであろう。……

わたしたちは真理をつかむだけでなく、真理に自分たちをつかんでいただくべきである。こうして、真理がわたしたちのうちに、そしてわたしたちが真理のうちにいるのである。そしてもしそうなれば、わたしたちの生活と品性は、真理がわたしたちのために何かを成し遂げつつある事実を明らかにするようになる。真理がわたしたちを聖化し、栄光の御国における天使たちの社会にふさわしい道徳的な資格をわたしたちに与えているのである。わたしたちがつかんでいる真理は天からのものである。そして宗教が心のうちに宿る場所を見出すとき、それはその精錬し、清める働きを開始するのである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1878 年 5 月 9 日）

4. 追加された恩恵期間

a. ぶどう畑の園丁は、主人にどのように嘆願しましたか（ルカ 13:8）。

b. エルサレムの滅亡前の時代と人類歴史最後の前の時代には、どのような類似点が引き出せますか（ペテロ第二 3:9, 10）。

「ああ、なんと尊く寛容なわたしたちの憐れみ深い救い主であろう！ああ、親愛なる青年たちが各自、カルバリーで無限の代価をもって買われた魂の価値を正しく評価すればよいのだが！ああ、各々、神から自分に与えられた能力に対して適切な評価を下せばよいのだが！キリストを通して、あなたは進歩のはしごを上り、イエスの支配下にすべての力をおくことができる。……霊において、思想において、言葉において、行動において、あなたはキリストの御霊に動かされていることを表し、あなたの生涯は他の人々に対する感化力を及ぼすことができる。

わたしたちはまったく不注意になったり怠慢になったりするにはあまりにも厳粛な世界歴史の時代に生存している。……あなたは祈り、信じ、従わなければならない。あなた自身の力では、何もできない。しかし、イエス・キリストの恵みのうちに、あなたは自分自身の魂に最大の善をもたらし、また他の人々の魂のために最大の祝福をもたらすような方法で自分の力を用いることができる。イエスをつかみなさい。そうすればあなたは勤勉にキリストの働きをなすようになり、ついには永遠の報いを受けるであろう。」（神のむすこ娘たち 118）

c. イエスは、結論として、彼ら自身が国家として自分たち自身の運命を決定しなければならないことを、どのように示されましたか（ルカ 13:9）。

「イエスは たとえの中で園丁の働きの結果についてはお語りにならなかった。主のお話はここでとぎれた。その結論は、主のみことばを聞いた時代の人々の態度にかかっていた。『もしそれでもだめでしたら、切り倒してください』という厳粛な警告が、彼らに対して与えられた。最終的な宣告が発せられるかどうかは、その人々次第であった。 怒りの日は近づいていた。ぶどう園の主人は、すでにイスラエルをおそった災害によって、実を結ばない木の破滅について、あわれみ深い警告を前もって発しておられたのである。」（キリストの実物教訓 196）

木曜日 *5月17日*

5.　今日わたしたちのための警告

a.　この譬から、三重のメッセージを信じる信徒たちは、どの警告を受けるべきですか。主は、わたしたちのためになお、どのような努力を払っておられますか（イザヤ 27:2–4; ホセア 11:8（上句））。

「その警告は時代をくだって現代のわたしたちにまで響いてくる。ああ、軽はずみな人よ。あなたは主のぶどう園の実を結ばない木ではないだろうか。破滅の宣告がまもなくあなたに向かって発せられるのではないか。あなたはどれほど長く主のめぐみをうけてきたか。どんなに長く主はあなたが愛をもって答えるのをじっと待ってこられたか。 主のぶどう園に植えられ、園丁の注意深い保護をうけて、なんという大きな特権をあなたは受けていることか。どんなにしばしば情け深い福音のおとずれが、あなたの心を震わせたことか。あなたはキリストの名を名乗り、外面的にはキリストのからだである教会の一員である。しかしあなたは偉大な愛のみ心との生きたつながりを自覚していない。主のいのちの潮はあなたに流れてない。『みたまの実』である主の品性の美しい徳性はあなたの中にみられない。」（キリストの実物教訓 196, 197）

b.　自分たちのための神の保護と働きに応答しない人々にはついにどのような宣告が下されますか（ホセア 4:17; 黙示録 3:16）。

「神の力に応答しないでいると心はかたくなになって聖霊の感化にもはや感じなくなってしまう。そのとき、次のことばが語られるのである、『その木を切り倒してしまえ。なんのために、土地をむだにふさがせて置くのか』（ルカ 13:7）」（同上 198）

金曜日 *5月18日*

個人的な復習問題

1.　ユダヤ人はなぜ災いについてひそかに満足して語ったのですか。
2.　わたしたちは神の園の中の再生された実りある木となるために、どのように変わらなければなりませんか。
3.　わたしたちの生活の中で実を結ぶことに失敗するとき、それはわたしたちの周囲の世にどのように影響しますか。このことはわたしたちの宗教に対してどのような不名誉をもたらしますか。
4.　わたしたちが神から与えられた力を用いる方法は、どのようにわたしたちの生活で結ぶ実に影響しますか。
5.　わたしたちは、教会員だとしても、どのように主のぶどう畑の中の実らない木となる可能性がありますか。

礼服なく

「彼に言った、『友よ、どうしてあなたは礼服をつけないで、ここにはいってきたのですか』。しかし、彼は黙っていた。」（マタイ 22:12）

「礼服のたとえは、わたしたちの前にきわめて重要な教訓を展開している。婚姻は、人性と神性との結合をあらわし、礼服は、婚宴にふさわしい客と認められる者がみな所有しなければならない品性をあらわすのである。」（キリストの実物教訓 287）

推奨文献：　キリストの実物教訓 287 ～ 298

日曜日　*5 月 20 日*

1.　王の婚宴に招かれる

a.　礼服の譬の中では、だれの権威によって招待がなされましたか。応答は何でしたか（マタイ 22:2, 3）。

b.　王の招待は二度目にどのように扱われましたか（マタイ 22:4–6）。

「この〔礼服の〕たとえは、晩餐のたとえと同様に福音の招待が発せられて、ユダヤ民族がそれを拒んだために、異邦人にあわれみ深い招待が発せられたことを教えている。しかし、このたとえでは招待を拒絶した者に対して非常な恥辱と恐ろしい罰があることを教えている。婚宴への招待は王の招待である。それは命令を下す権威者から発せられている。 それを受ける者に非常な名誉を与える。しかし、その名誉は正しく評価されなかった。王の権威は軽視された。」（キリストの実物教訓 287）

c.　王は今や、自分の招待を蔑んだ人々に対してどうするように命じましたか（マタイ 22:7）。

2. 客を探す

a. その次に婚宴にだれが招かれましたか（マタイ 22:8–10）。この招きは、福音の招待を受け入れる人々について、わたしたちに何を教えますか（マタイ 7:21; ヤコブ 1:22; ヨハネ 3:5）。

「はじめに招かれた者たちは、この世の利益を犠牲にしてまで王の晩餐に出なければならぬことはないと考えた。 また招きを受け入れた者であっても、ただ、自分の利益のことしか考えていない者もあった。彼らは婚宴の食卓にあずかるために来たが、王を尊ぼうとする気持ちは少しも持っていなかった。」（キリストの実物教訓 289）

「わたしたちは善人と悪人が共に教会の中に集められるからといって途方に暮れてはならない。ユダは弟子たちの間に数えられていたのである。彼は人が持つことのできるすべての利点を持っていた。しかし、彼は真理を聞き、非常にはっきりと示された諸原則を耳にしたにもかかわらず、キリストは彼が真理を受け入れなかったことをご存じであった。彼は真理を食さなかった。それは彼の一部とならなかった。彼の古い習慣は絶えず、自己主張した。しかし、キリストはユダを弟子たちの間から切り離すための強制的な手段をお用いにならなかった。

教会に連なってきたが、キリストには連なっていなかった人々が明らかにされる時が来る。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1899 年 2 月 7 日）

b. 王が客を調べに婚宴に入ってきたとき、何が起こりましたか（マタイ 22:11）。

「それというのは、婚宴につどった客の一人一人のために、あらかじめ礼服が用意されていた。この服は王の贈り物であった。客はこれを着ることによって婚宴を催した主人に敬意をあらわした。しかし一人の男はふだん着を着ていた。……高い価を払って彼のために用意されてある服を、彼は無視して着なかった。こうして彼はその主人をさげすんだ。」（キリストの実物教訓 289）

c. 王は礼服を着ていなかった人に何と言いましたか（マタイ 22:12–14）。

「憐れみの招待を聞く多くの人々は、テストされ、試される。しかし、わずかな者しか生ける神の印をもって印されないのである。天の御国に入ることができるように、自らを幼子のようにへりくだらせるのはわずかであろう。」（教会への証 5 巻 50）

3. 吟味の働き

a. 客を吟味したことは何を表していますか（ダニエル 7:9, 10）。

「こうして、王が婚宴の客を吟味したことは、審判のみわざをあらわしている。福音の婚宴に集まる客は神に仕えることを表明する者、その名がいのちの書に書かれている者である。しかしクリスチャンであると告白する者がすべてほんとうの弟子なのではない。最後の報酬が与えられる前に、だれが義人の嗣業にあずかるにふさわしいかが決定されなければならない。この決定はキリストが天の雲に乗って再臨なさる以前に行なわれなければならない。キリストがこられるときには、報いを携えてきて、「それぞれのしわざに応じて報い」られるからである（黙示録 22:12）。とすると、主の来臨の前にすべての人のわざがどんなものであるかがさばかれ、キリストの弟子の一人一人はその行為にしたがって報いが与えられるのである。」（キリストの実物教訓 289.290）

b. この譬が進行している調査審判にはっきりと言及しているように、王の招待は何を表していますか（黙示録 3:20, 21）。多くの人々は自分の行為によって、何と言いますか（17 節）。

「礼服をつけずに婚宴に出席した人は、今日のわたしたちの世界の多くの人々を代表している。彼らはクリスチャンであると表明し、福音の祝福と特権にあずかることを主張するが、自分の品性が変えられる必要があるとは思っていない。彼らは真心から罪を悔い改めたことがない。彼らはキリストの必要を自覚せず、キリストへの信仰を働かせない。彼らは悪への先天的並びに後天的傾向に勝利していない。それにもかかわらず彼らは自分は高潔であると思っており、キリストに信頼せずに自分の功績にたよっている。彼らはみことばを聞きに婚宴にあつまるが、キリストの義の衣を身につけていない。」（同上 294, 295）

「神のみことばや、神の使命者たちを通して与えられる警告と譴責と懇願の一つ一つは、心の戸をたたく音である。それは中にはいることを求めておられるイエスのみ声である。ノックを無視するたびに、戸を開く気持がうすれる。聖霊の感動は、きょう無視されると、明日はきょうほど強くなくなる。心はだんだん感じなくなり、人生の短かさについて、また未来の大いなる永遠について、危険な無感覚状態に陥る。」（各時代の希望中巻 291）

4. 天来の衣を持つ

a. もし天で婚宴にあずかりたければ、すべての人が持たなければならない礼服を構成しているものは何ですか（黙示録 19:7, 8）。

「たとえの中の礼服は、キリストの真の弟子が持つ清くてしみのない品性をあらわしている。……主を自分の救い主として受け入れるすべての者に信仰を通して与えられるのは、キリストの義であり、キリストご自身の汚れのないご品性である。……

天の織機で織られたこの衣には、人間の創意による糸は一本も含まれていない。キリストは人性をおとりになって完全な品性を形成された。そしてこの品性をわたしたちに分け与えてくださるのである。」（キリストの実物教訓 290, 291）

b. わたしたちはどのようにして義なる品性を得ますか（イザヤ 55:1; マタイ 5:6）。

「魂はキリストを受け入れるとき、キリストのような生活を送る力を受ける。」（同上 294）

「義が得られるのは、苦しい戦いやつらい労苦によってではなく、ささげものや犠牲によってでもない。それはそれを受けたいと飢えかわくすべてのものに無償で与えられるのである。」（祝福の山 22）

c. 義には何が伴いますか（ヨハネ第一 3:7, 24; ヨハネ 15:5）。

「義とは正しい行ないである。そしてすべての者は各自の行為によってさばかれる。わたしたちの品性は、わたしたちの行ないに現われる。行ないは信仰が本物であるかどうかを示す。……

わたしたちは、イエスのみ名こそ人を救う唯一の名であることを信じつつも、なお信仰によってキリストを自分の救い主として信じないでいることもできる。真理の理論を信ずるだけでは十分でない。キリストへの信仰を表明して名前を教会名簿に連ねるだけでは十分でない。『神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜わった御霊によって知るのである。』『もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである』（ヨハネ第一 3:24; 2:3）。これが回心のほんとうの証拠である。わたしたちが口で何を言おうとも、キリストが義の行為となってあらわされるのでなければ、それは無にひとしい。」（キリストの実物教訓 292, 293）

木曜日　*5月24日*

5.　　祝福された経験

a.　黙示録 3:18 に記録されているようにキリストの申し出を受け入れる人々の栄光に満ちた経験を描写しなさい（黙示録 19:8, 9）。

「キリストの義というしみのない衣が、試練と誘惑に耐えた忠実な神の民に着せられる。さげすまれた残りの民は栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることはないのである。彼らの名は小羊の命の書に書き留められて、各時代の忠実な者の中に加えられるのである。……

この〔忠実な〕人々は、その額に父なる神の名を記されて、小羊とともにシオンの山に立つのである。彼らはみ座の前で新しい歌を歌うが、それは地上から贖われた 14 万 4 千人のほかは、だれも学ぶことができない。」（国と指導者下巻 196）

b.　キリストが地上におられたときのこのお方のどの経験を、今日わたしたちにも可能ですか（詩篇 40:8; ヨハネ 15:10）。

「キリストはその全き従順によって、あらゆる人間が神の戒めに従うことができるようになさった。人が自分自身の心をキリストにささげるとき、心はキリストの心と結合し、意志はキリストの意志に没入し、精神はキリストの精神と一つになり、思いはキリストのうちにとらわれて、わたしたちはキリストのいのちを生きる。これがキリストの義の衣を着ることである。」（キリストの実物教訓 292）

金曜日　*5月25日*

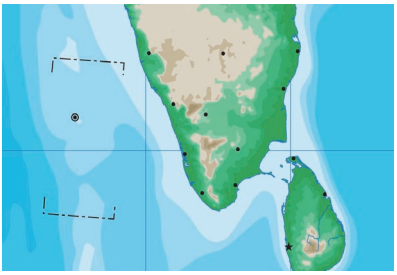
個人的な復習問題

1. **わたしたちは自分たちの王が、自分たちの人性にこのお方の神性を結合させるように招かれるとき、どのようにしてこのお方を尊ぶことができますか。**
2. **わたしたちはどのように、王の招きを受け入れはしても悪い動機を持っている人のようになりますか。**
3. **イエスはどのように心の戸をたたいておられますか。またこのお方は何を望んでおられますか。**
4. **礼服によって何が象徴されていますか。またわたしたちは自分がそれを着ているかどうかどのようにしてわかりますか。**
5. **キリストの義をもって覆われるというのはどういう意味ですか。**

安息日 2018 年 6 月 2 日

第一安息日献金

インドのトゥーットゥックディの礼拝堂のために



インドはおよそ 13 億人の人口を持つ国で、土地面積では第七番目に大きい国です。29 州と 7 連邦直轄領からなっています。インドの海岸は 7000 キロメートル以上に及びます。

トゥーットゥックディは東海岸にある主要な港町で、インドの亜大陸の最南端にあるカンヤクマリ（コモリン岬）の近くにあります。

2007 年のある時、南インド連合から兄弟たちが、現代の真理に非常な関心を示していた家族連れのアドベンチストの兄弟たちを訪れました。リバイバルと改革のメッセージを聞き、研究した後、11 人の魂が改革運動に連なりました。働きは成長し、改革のメッセージが近隣の村々に伝わりました。

トゥーットゥックディにいる兄弟たちは借りた場所で礼拝してきました。わたしたちの資金的な制約にもかかわらず、主のために記念塔を建てることのできる一画の土地を手に入れることができました。今こそ礼拝堂を建てるという大望を実現させるために、わたしたちは世界中の神の子らの助けを必要としています。

そこで、世界中のわたしたちの兄弟姉妹、友人がた、改革のメッセージを感謝し、それによって生きている方々に、この建設事業のために特別に惜しみない献金を心よりお願いいたします。わたしたちはまたこの事業が神の誉と栄光のために完成するよう、皆さんの真剣なお祈りもお願いいたします。

「信じるすべての人に、神は、自分に委ねられた能力を世の益に用いるために男女を教育するというはっきりとした目的のために、神がご自分の栄光のために貸し与えてこられた資金を用いて教会を起こすという重責をおいてこられた。このお方は人間をご自分の管理者とされた。喜んで惜しみなく、彼らは自分たちの持っている資金を義と真理の前進のために用いるべきである。彼らはこのお方の委ねられたタラントをこのお方のみ働きを建て、このお方の御国を拡張するために用いるべきである。」（医事伝道 315）

世界中の兄弟たちの体に、この教会建設のために惜しみなく捧げるよう心を開いてくださることをさきだってお礼申し上げると共に、わたしたちもまた主が皆さんの倉を豊かに満たし、皆さんが健康であるようにとお祈りいたします。アーメン

トゥーットゥックディから皆さんの兄弟より

金持ちとラザロ

「アブラハムは言った、『もし彼らがモーセと預言者とに耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう』。」（ルカ 16:31）

「この世の財産は少なくても、神にたより、苦しみに耐える者は、やがて、世の与えうる最高の地位を占めながら、その生涯を神にささげなかった人々よりも高められるのである。」（キリストの実物教訓 235）

推奨文献：　キリストの実物教訓 235 ～ 247

日曜日　*5 月 27 日*

1.　死において定まる運命

a.　どの譬が、人はその生き方にしたがって、死ぬときに将来が定まるという真理を説明していますか。二人の人の違いを説明しなさい。またわたしたちが学ぶことのできる教訓を述べなさい（ルカ 16:19–21）。

「キリストは、金持ちとラザロのたとえをお語りになって、人々が自己の永遠の運命を決定するのはこの世の生涯においてであることをお示しになった。……しかし、もし人々がその機会を自己満足のためにのがしてしまうならば、彼らは自分を永遠のいのちから切り離してしまうのである。その後にはもはや恩恵の期間は与えられないのである。自分の選択によって、彼らは自分たちと神との間に越えることのできない淵（ふち）をつくってしまうのである。」（キリストの実物教訓 235）

b.　この物乞いと金持ちには、最終的に何が起こりましたか（ルカ 16:22）。

「貧しい人は、日々苦しんだが、忍耐強く、静かに耐えた。そのうちに、彼は死に、葬られた。彼のために悲しむ者もなかった。しかし、苦しみに耐えることによって、彼はキリストのためにあかしをし、信仰の試みに耐えた。そして死んだとき、彼は、天使によってアブラハムのふところに連れていかれたと述べられている。」（同上 237, 238）

2. 誤った見解を正す

a. イエスの聴衆の多くが持っていたどの誤った信仰を、イエスは重要な真理を教えるためにお用いになりましたか。金持ちの運命によって、イエスはどの真理を教えておられましたか（ルカ 16:23, 24）。

「キリストは、このたとえでは、人間の立場に立って語っておられる。キリストの話を聞いていた者たちのうち、多くの者が死と復活の間には意識のある状態が続くという教えを信じていた。救い主は、彼らのそのような考えを知っておられて、すでに彼らのいだいている思想を用いて重要な真理を彼らの心に植えつけようとなさった。彼は、聴衆の前に、彼らが、自分たちの神との真の関係を知るための鏡を置かれた。彼は、すべての人に明らかにしたいと望まれた思想―人はその持ち物によって評価されるものではないということと、人間の持っているすべての物は、主からただ委託された物としてその人の所有になっていること―を教えるために、そのころ一般に流布していた考え方を利用なさった。これらのたまものの用い方を誤るならば、神を愛し神に信頼する最も貧しくて、最も苦しんでいる人よりも下に置かれることとなるのである。」（キリストの実物教訓 238）

b. 死んだ体と魂の状態について、聖書は何を教えていますか（伝道の書 9:5, 6; 詩篇 146:2–4; ヨハネ 11:11）。

「わたしの思いはしばしば、死んだときに直ちに与えられる報いや刑罰と、将来の復活と裁きという疑いようのない事実を調和させようとする努力によって阻害された。もし死んだときに、魂が永遠の幸福か悲惨さに入るとすれば、哀れな朽ちた体が復活する必要性はどこにあるだろう？

しかし、この新しく美しい信仰は、わたしになぜ霊感を受けた著者たちが体の復活についてこれほどまで記してきたかという理由を教えてくれた。それは全存在が墓の中で眠っているからである。わたしは今やこの問題に関してかつてわたしたちが取っていた立場の考えの誤りをはっきりと理解することができた。」（ﾗｲﾌ・ｽｹｯﾁ 49, 50）

c. 金持ちの訴えに対して、比喩的アブラハムは何と答えましたか（ルカ 16:25）。

「最終的な永遠の重い栄光と比べたら、この現世の苦しみなどなんであろう。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1885 年 12 月 10 日）

3. 永遠に失われた機会

a. この会話の中でアブラハムはさらにどのような困難を述べましたか（ルカ 16:26）。

「死ぬことは厳粛なことであるが、生きることははるかにもっと厳粛である。わたしたちの生涯の一つ一つの思想、言葉、行いに、わたしたちはもう一度直面することになる。わたしたちは恩恵期間に自ら築いた品性を、永遠に持ち続けなければならない。死は体の分解をもたらすが、品性には何の変化も及ぼさない。キリストの来臨はわたしたちの品性を変えない。ただそれを永遠に変化の及ばないものとして固めるだけである。」（教会への証 5 巻 466）

b. これまで注意を払ってこなかったどの問題について、金持ちは声をあげましたか（ルカ 16:27, 28）。神はわたしたちの救いのために備えることにおいて、何かしないでおかれたことはありますか。

「金持ちがその兄弟たちのために、もっと証拠を与えてくれるように嘆願したとき、彼は、もしそのような証拠が与えられても、彼らはその勧めを聞き入れないであろうとはっきり告げられた。彼の要求は神を非難するものだった。それは、あなたがもっと十分にわたしを警告してくださったならば、わたしは今ここにいないであろうにと言っているも同然であった。この願いに答えて、アブラハムは、あなたの兄弟たちは十分に警告されていると答えた。 光は彼らに与えられたが、彼らは見ようとしなかった。真理は彼らに示されたが、彼らは聞こうとしなかった。」（キリストの実物教訓 240）

「神がキリストをわたしたちの世に与えて下さったとき、この一つの賜物の中に天のあらゆる宝を与えてくださったのである。このお方は何一つ取っておかれなかった。このお方は人々を悔い改めに導くためにこれ以上何もなさることができなかった。このお方が彼らの救いのために取っておかれた別の手段はない。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1901 年 9 月 17 日）

c. 今日、この世の状態を見るとき、どのようなまじめな思想を考えるべきですか（ヤコブ 4:14; コリント第二 6:2）。

「神は……人々を悔い改めへ導くための最後の資源が使い果たされるまで、人を忍ばれる。しかし、神の寛容には限界がある。」（同上）

「憐れみが立ち去りかねている間に、今、来なさい。告白をもって、魂の悔悟をもって来なさい。そうすれば神は豊かに許しを与えて下さる。新たな機会を軽んじてはならない。」（教会への証 5 巻 353）

4. 充分な警告が無視された

a. ユダヤ国家は最初に、どの証を拒みましたか。そしてさらなるどの証拠を彼らは無視するであろうと、イエスは言われましたか（ルカ 16:29–31; ヨハネ 5:46, 47）。

『もし彼らがモーセと預言者とに耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう』（ルカ 16:31）。このことばは、ユダヤ民族の歴史の中において真実であることが証明された。キリストの最後の、かつ最大の奇跡は、死んで四日もたったベタニヤのラザロをよみがえらされたことであった。ユダヤ人は、救い主の神性についての、この驚くべき証拠を与えられたが、彼らはそれを拒否した。ラザロはよみがえり、彼らの前であかししたが、彼らはすべての証拠に対して心をかたくなにし、彼のいのちを取ろうとさえしたのであった（ヨハネ 12:9–11）。」（キリストの実物教訓 240, 241）

b. ユダヤ人には、どの霊的な祝福が与えられましたか（ローマ 9:3–5）。彼らのうち多くの人々は、自分たちの祝福の扱いに関して、どのように有罪でしたか（ルカ 12:21）。

「キリストが金持ちとラザロのたとえをお語りになったとき、ユダヤ民族の中には、この金持ちのようなあわれな状態にあって、主の財貨を利己的な満足のために用い、『あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた』という宣告を受けようとしている人々がおおぜいいた（ダニエル書 5:27）。この金持ちは、物質的と精神的なあらゆる祝福を与えられていたが、これらの祝福を神と協力して用いようとしなかった。」（同上 243）

c. わたしたちは、どのように同じ過ちを犯す危険性のうちにいますか（箴言 14:31; ゼカリヤ 7:10）。

「もし神がわたしたちにこの世の財産を多く与えて下さるなら、わたしたちはそれを利己的にため込むのではなく、またさらに多くを欲しがるのではなく、それほど豊かに祝福されていない人々に惜しみなく与えるのである。神がわたしたちに惜しみなく与えて下さった祝福を喜んで、快活に与えることほど、霊を活気づけるものはない。魂の命は、このように成し遂げられた善を見ることによって、また主の財産を良心的に用いているという自覚によって生き返らせられる。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1902 年 5 月 27 日）

「わたしたちのために救いを買った同じ犠牲の精神は、天の賜物にあずかる者となった心に宿るようになる。」（彼を掲げよ 278）

木曜日 *5月31日*

5.　　自信の危険

a.　キリストの時代に、神の恩寵を受けていた民が、どのような自己満足した自信を抱いていましたか（ヨハネ 8:33）。彼らはいつこのお方の警告を理解しましたか。

「事実その通りであった。災いがエルサレムを襲い、飢餓とあらゆる苦しみが民の上にのぞんだとき、彼らは、これらのキリストのみことばを思い出し、そのたとえの意味を理解した。彼らは、神のお与えになった光を世に輝かすことを怠ったことによって、苦しみを自分たちの上に招いたのであった。」（キリストの実物教訓 245）

b.　どのような類似した欺瞞が、ラオデキヤ人に影響を及ぼしていますか（黙示録 3:16, 17）。

「今日、世の中には、自己を義とする人々がいる。彼らは暴食家ではない。彼らは酒飲みではない。彼らは無神論者でもない。しかし、彼らは神のためではなくて、自分のために生きることを願う。彼らは神のことを少しも考えない。 そのために、彼らは信仰のない人びとと一緒にされるのである。彼らが神の都の門をはいることができたとしても、彼らはいのちの木にあずかる権利を持つことはできない。なぜなら、神のいましめがそのすべての要求と共に彼らの前に置かれたとき、彼らはそれを拒んだからである。彼らは、この世にあって神に仕えなかった。それゆえ、彼らは来世においても神に仕えることはない。彼らは神のみ前に生きることはできない。彼らは、天国よりは他の場所のほうが好ましいと感じるであろう。

キリストから学ぶということは、彼の恵み、つまり彼の品性を受けることを意味する。しかし、地上において彼らに貴重な機会が与えられていたことと、聖なる感化がいかに価値あるものであったかを認めず、それらを用いなかった者は、天の聖なる礼拝にあずかるにふさわしい者ではない。」（同上 247）

金曜日 *6月1日*

個人的な復習問題

1.　ふたりの人の生涯についてのこの譬の中で、どの教訓が教えられていますか。
2.　アブラハムの返答は、金持ちの問題をどのように明らかにしましたか。
3.　金持ちの自分の兄弟たちに関する要望は、何を示唆していますか。
4.　この譬は、現在ある機会について、何を教えていますか。
5.　自己義の教会員たちは無神論者ではありません。そうであれば、なぜ彼らは不信者に分類されているのですか。

良いサマリヤ人

「あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。」（マタイ 5:7）

「よいサマリヤ人の物語を通して、キリストは真の宗教の本質を例示しておられる。真の宗教は、制度や、信条や、儀式にあるのではなくて、それは愛の行為を実行すること、他人に最高の幸福をもたらすこと、真の親切さにあることを、キリストは示しておられる。」（各時代の希望中巻 299）

推奨文献：　キリストの実物教訓 353 ～ 368
祝福の山 26 ～ 29

日曜日　*6 月 3 日*

1.　永遠の命を受ける条件

a.　どのようにして永遠の命を得るかに関する律法学者の質問に、イエスはどのようにお答えになりましたか（ルカ 10:25, 26）。

「救いの条件はいつも同じである。命、永遠の命は神の律法を守るすべての人々のためである。思想、言葉、行いの中に表された完全な従順は、律法学者がキリストに『永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか』と尋ねた時と同様に、今も不可欠である。」（彼を知るために 299）

b.　律法学者はどの律法に言及しましたか。またイエスはどのようにお答えになりましたか（ルカ 10:27, 28）。

「この律法学者は、パリサイ人の立場とその行ないに満足していなかった。彼は、聖書の真の意味を悟ろうと願って、研究を続けてきた。彼は、この問題に深い関心を寄せていたので、真剣に『何をすべきでしょうか』（ルカ 10:25）と聞いた。彼が律法の要求について答えたときに、彼は、すべての儀式や礼典に関するいましめを省略した。彼は、これらのものを全く無価値なものとして、ただ、すべての律法と預言者とがよって立つところの二大原則をのべたのである。」（キリストの実物教訓 354）

2. 自分たちの隣人をなおざりにする

a. その後、律法学者はどの質問をしたため、イエスが譬を語ることになりましたか（ルカ 10:29）。今日、わたしたちの隣人とはだれですか。

「わたしたちの隣人とは、わたしたちの助けを必要としているすべての人である。わたしたちの隣人とは敵によって傷つけられ、打たれたすべての魂である。わたしたちの隣人とは、神の財産であるすべての人である。……

わたしたちの隣人とは、単に自分たちの仲間や特別な友人たちではない。単にわたしたちの教会に属している人々、あるいはわたしたちと同じように考える人々のことではない。わたしたちの隣人とは全人類家族である。わたしたちはすべての人に、特に信仰の家族である人々に、善をなすべきである。わたしたちは世に神の律法を実行するということが何を意味するかを世に示して見せなければならない。わたしたちは神を最高に愛し、隣人たちを自分自身のように愛すべきである。」（今日のわたしの生涯 232）

b. 今日、多くの人々はどのような態度、すなわち自分の隣人を愛していないことを示すどのような態度を持っていますか。彼らはだれを模倣していますか（創世記 4:9）。

「『わたしが弟の番人でしょうか』と尋ねる精神の人があまりにも多くいる。御使は言った、『しかり、あなたは兄弟の番人である。あなたは自分の兄弟のために注意深い心遣いを持つべきである。彼の安寧に関心を持ち、親切な愛の精神を彼に対して抱くべきである。共に押し進め。共に押し進め』。神は人が開かれた心で、正直で、気取ることなく、柔和で、謙遜で、単純さを持っているよう計画された。これが天の原則である。神はそうお定めになった。しかし、哀れな弱い人間は何か別のものを求めてきた。すなわち、自分自身の道に従い、注意深く自分自身の利益に関心を向けることである。」（教会への証 1 巻 113, 114）

c. わたしたちはこれがこの信心深い態度ではないことが、どのようにわかりますか（ローマ 14:7）。

「わたしたちの生涯のすべての行動は、善か悪かのいずれかに影響する。わたしたちの感化力は上に向くか、下に向くかの傾向がある。それは感じられ、行動され、そして多かれ少なかれ他の人によって再現されるのである。」（同上 2 巻 133）

「わたしたちが気がつかないで及ぼす感化が人々を励まし強めることも、また失望させキリストと真理から退けることもできるのである。」（キリストへの道 167）

3. 真の隣人が明らかにされる

a. 譬の中の人はどこで強盗の手に落ちましたか。だれが彼の向こうを通って、彼を半死状態で放置しましたか（ルカ 10:30–32）。

「エルサレムからエリコへ行く旅人は、ユダヤの荒野の一角を通らなければならなかった。道は、岩かどけわしい谷間を下っていて、強盗が出没し、しばしば暴力行為の行なわれるところであった。旅人が襲われ、貴重品が全部奪われた上半殺しの目に会って路傍に横たわっていたのは、ここであった。こうして、彼が倒れているところへ、一人の祭司が通りかかった。彼は、旅人が傷つき、血にまみれて横たわっているのを見たが、なんの助けも与えないで行ってしまった。彼は『向こう側を通って行った』。次に、レビ人が現われた。彼は何が起こったのかを知ろうとする好奇心から、立ち止まって、この被害者を見た。彼は、自分がなんとかしなければならないのを自覚したけれども、それは快い義務ではなかった。この道を通らなければよかった。そうすれば、傷ついた人を見ないですんだのにと彼は思った。彼はこれを自分には全く無関係な事件であるとして、『向こう側を通って行った』。」（キリストの実物教訓 356）

b. 傷ついた人に憐れみをいだいたのはだれでしたか。そして彼はその人のために何をしましたか（ルカ 10:33–35）。

「祭司とレビ人は二人とも神を敬っていることを公言してはいたが、サマリヤ人こそ真に悔い改めた人であることを示した。このようなことは、祭司やレビ人にとって不快な仕事であったと同様に、サマリヤ人にとっても不快な仕事であった。しかし、サマリヤ人は、彼の精神と働きが神と一致していることを示したのである。……

祭司やレビ人は、主が彼らにお命じになった仕事を自分たちは怠りながら、憎み軽べつしているサマリヤ人に、同胞の一人を介抱させたのである。」（同上 356, 358, 359）

c. 律法学者はだれが真の隣人だと認めましたか。彼はどのように答えましたか（ルカ 10:36, 37）。

「この律法学者も何一つ批評するところを見つけることはできなかった。キリストに対する彼の偏見は取りのぞかれた。けれども、彼は、サマリヤ人に対する偏見には打ちかつことができないで、サマリヤ人と名をあげて答えることはできなかった。」（同上 358）

4.　偏見を克服する

a.　なぜ律法学者はそのように答えたのですか。ユダヤ人たちは、サマリヤ人たちに対してどのような態度を持っていましたか（ヨハネ 4:9; 8:48, 49）。

「ユダヤ人とサマリヤ人との間の大きな相違は、宗教的信条の相違、すなわち、真の礼拝とは、なんであるかということにあった。パリサイ人は、サマリヤ人のことを少しもよく言わず、にがにがしいのろいを彼らに浴びせていた。ユダヤ人とサマリヤ人との間の反感は、実に激しく、キリストがサマリヤの女に水を求められたときなど、彼女がそれを非常に不思議に思ったほどであった。」（キリストの実物教訓 358）

b.　他の国籍の人々に奉仕することにおけるイエスの模範はどのようなものでしたか（使徒行伝 10:38）。わたしたちはこの教えから何を学ぶことができますか（マタイ 23:8（下句））。

「公生涯のあいだ、キリストは、ユダヤ人と異邦人との間のへだての壁を打ち破り、人類すべてに救いを宣べ伝えられた。キリストはユダヤ人ではあったが、サマリヤ人と自由に交わり、この軽蔑された民族について、ユダヤ人が持っていたパリサイ的慣習を無視された。キリストは彼らの屋根の下に眠り、彼らの食卓で食べ、彼らの町の通りで教えられた。」（患難から栄光へ上巻 11）

「神は、国籍、人種、階級の差別をなさらない。神は、全人類の創造者である。すべての人びとは、創造によって、一つの家族であり、贖罪によって、一つなのである。」（キリストの実物教訓 363）

c.　弟子たちは後に、他の国民に対する自分たちの偏見を克服したことを、どのように示しましたか（使徒行伝 8:25; 17:24–27）。

「キリストは、神の国では領土の境界線がなく、世襲的階級制もなく、貴族もいないという事実を、また、救い主の愛の使命を携えて、あらゆる国々に出て行かなければならないということを、弟子たちに教えようとされた。しかし彼らは後になるまで、神が『ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。こうして、人々が熱心に追い求めて捜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびとりから遠く離れておいでになるのではない』ということを十分に認識しなかった（使徒行伝 17:26, 27）。」（患難から栄光へ上巻 12）

木曜日　6月7日

5.　困窮している人々に助けの手を伸ばす

a.　イエスは良きサマリヤ人の譬から、わたしたちが何を学ぶように望んでおられますか（ルカ 10:36, 37; ローマ 12:20, 21）。

「わたしたちは、キリストのしもべであると主張し、神のことばの中の真理を全部信じるといってみても、信じることがわたしたちの日常生活のなかで行なわれていないならば、隣人に対してなんの役にも立たない。どんなにりっぱなことを口で言ってみても、わたしたちが、クリスチャンでないならば、自分を救うことも、同胞を救うこともできない。わたしたちの言うすべてのことばよりも、一つの正しい模範が、世界を益するのである。」（キリストの実物教訓 361）

b.　このお方はわたしたちが自分の周囲にいる人々をどのように助けることを望んでおられますか（マタイ 7:12; 10:8）。

「わたしたちは、他の人びとの悲しみや困難や苦難をこちらから早く察して、貴賤（きせん）貧富の別なく、人びとと共に喜びも苦しみも味わわなければならない。『ただで受けたのだから、ただで与えるがよい』とキリストは言われるのである（マタイ 10:8）。わたしたちの回りには、試練に会って、同情のことばと援助の手を要する気の毒な魂がいる。」（同上 364）

「苦しんでいる魂を見たならば、わたしたちが神から与えられた慰めを、分け与えないで通り過ぎてはならないのである。……

わたしたちが、この仕事を忠実にするか否かに、他の人びとの幸福ばかりでなくて、わたしたち自身の永遠の運命がかかっている。」（同上 365, 366）

金曜日　6月8日

個人的な復習問題

1. **神の律法に対するわたしたちの従順は、どこまで及ぶべきですか。**
2. **わたしたちの隣人とはだれですか。隣人に対するわたしたちの義務は何ですか。**
3. **祭司やレビ人は自分の信仰を高らかに公言していました。サマリヤ人は、祭司やレビたちが持っていなかった何を持っていましたか。**
4. **イエスは当時、偏見の壁をどのように壊し始められましたか。**
5. **もしわたしたちが真のクリスチャンであれば、どのようにして同胞仲間を助けようとしますか。**

許すべき時

「もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」（マタイ 6:15）

「人をゆるさない精神を正しいと認めることはできない。他の人に対して無慈悲なものは、その人自身が神のゆるしのめぐみを受けていない証拠である。神のゆるしによって、あやまちを犯した者の心は無限の愛なる神の大いなるみ心に近くひきよせられる。神のあわれみが潮のように、罪人の心に流れ込み、又その人から他の人々の心に流れこむのである。」（キリストの実物教訓 226）

推奨文献：　キリストの実物教訓 219 ～ 227

日曜日　*6 月 10 日*

1.　わたしたちは長く忍耐する者でなければならない

a.　イエスは、ペテロの許しについての見解に関して、どのように教えようとされましたか（マタイ 18:21, 22）。

「ラビたちは許しの限度を三度までとしていた。ペテロはキリストの教えから考えて、完全数である七回までのばそうと考えた。しかしキリストは、ゆるすことにうみつかれてはならないと、お教えになった。」（キリストの実物教訓 219）

b.　わたしたちは自分を傷つけた人々を、どのように扱うべきですか。それはなぜですか（ルカ 17:3; ガラテヤ 6:1）。

「くりかえし悪事を行ない、それを行なった者がそのあやまちを告白するとき、害を受けた者はしびれを切らして、これ以上許すことはできないと考えることが、しばしばある。……

もしあなたの兄弟があやまちを犯すならば、……彼らが痛切に告白しているようには思われないと……言ってはならない。人の心のなかまで読んだかのように、彼らをさばく力が、あなたにはあるのだろうか。……神があなたをゆるしてくださっただけゆるしなさい。七たびだけでなく、七たびを七十倍するまでにといわれる。」（同上 224, 225）

2. 許された大きな負債

a. 負債者の譬の中で、自分の王に大きな負債のある僕に、どのような運命が降りかかろうとしていましたか（マタイ 18:23–25）。

b. 憐れみを請う僕の嘆願に、王はどのように答えましたか（マタイ 18:26, 27）。

「この王が与えたゆるしは、すべての罪に対する神のゆるしをあらわしている。あわれに思ってしもべの負債をゆるした王は、キリストを表わしている。人間は律法を破って、罪の宣告のもとにあった。人間は自分自身を救うことができなかった。そのためにキリストはこの世界にこられ、神性に人性をまとい、不義なもののために、義なるご自身の命をお与えになった。主はわたしたちの罪のためにご自身を与え、血によって買いとったゆるしをすべての人に価なしに提供される。『主には、いつくしみがあり、また豊かなあがないがある』（詩篇 130:7）。」（キリストの実物教訓 220）

c. わたしたちは自分自身の罪に対して、キリストから豊かに許しを受けたため、この許しは、わたしたちをどの義務の下へおきますか（ヨハネ第一 4:11; マタイ 10:8）。

「〔神が〕主イエス・キリストのうちに、またこのお方を通してお許しにならない罪はない。これが罪人の唯一の希望であり、もし彼がここで真心からの信仰のうちに安んじているならば、彼の許しは確かであり、それは十分にして無償である。ただ一つの経路だけがあり、それはすべての人の手に届くものである。そしてその経路を通して、豊かで十分な許しが、悔い改めた悔悟のうちにある魂を待っている。そして最も暗い罪が許されるのである。」（信仰によってわたしは生きる 102）

「わたしたち自身、神の無代のたまものの恵みをこうむっている。わたしたちは恵み深い契約によって神の子と定められた。救い主の恵みによってわたしたちはあがなわれて、生まれかわった者となり、キリストと共なる世継ぎにまで高められたのである。この恵みを他の人々にあらわすようにしよう。」（キリストの実物教訓 225）

人をゆるさない精神を正しいと認めることはできない。他の人に対して無慈悲なものは、その人自身が神のゆるしのめぐみを受けていない証拠である。神のゆるしによって、あやまちを犯した者の心は無限の愛なる神の大いなるみ心に近くひきよせられる。神のあわれみが潮のように、罪人の心に流れ込み、又その人から他の人々の心に流れこむのである。キリストがその尊い生涯にあらわされたやさしさとあわれみとが、主のめぐみの共有者となる者の中に見られるのである。」（同上 226）

3. 許さない精神を抱く

a. 非常に大きな負債を許されたこの僕は、自分からほんのわずかな負債のあった同胞の一人をどのように扱いましたか（マタイ 18:28–30）。

「たとえにおいて、負債のある者が、『どうぞお待ちください。全部お返しいたしますから』と約束して、猶予を願ったとき、その宣告は取り消された。負債は全部消された。そのすぐあとに、彼は、彼をゆるした主人の模範にならう一つの機会が与えられた。外に出ると、彼はわずかな貸しのある仲間に出会った。彼は一万タラントゆるされたばかりであった。彼は、この仲間には百デナリ貸していた。しかし、これほどのあわれみを受けた彼が、仲間に向かっては全然ちがった態度をとった。仲間は、彼自身が王に向かってしたと同じ訴えをした。しかし同じようなゆるしはえられなかった。つい先ほどゆるされたばかりの彼は、やさしい心も、同情ももたなかった。あわれみが彼に示されたのに、彼は仲間に向かってはあわれみをもたなかった。」（キリストの実物教訓 221）

b. 王がこの無慈悲な行為について聞いたとき、何をしましたか（マタイ 18:31–34）。この教訓は、わたしたちに何を教えますか。

「ゆるすことを拒むものはそれによって彼自身がゆるされる望みを捨てているのである。」（同上 222）

c. イエスはご自身の生涯の中で、どのような許しの模範を残されましたか（ペテロ第一 2:23; ルカ 23:34）。わたしたちはどのようにしばしば、この点に関して失敗しますか。

「わたしたちはキリストの愛を持つ必要がある。それは許さない精神を抱かないためである。わたしたちは自分を傷つけた人々が自分の悪を告白しない限り、許さなくても正当化されると思ってはならない。わたしたちは自分の苦情の原因を積み上げ、自分たちが有罪だと考えている人が、自分の心を悔い改めと告白によってへりくだらせるまで彼らを締め上げるべきではない。……彼らがどんなにひどくわたしたちを傷つけたとしても、わたしたちの苦情の原因を心に抱き、自分の傷のために自己憐憫（れんびん）に陥ってはならない。かえって、神に対する自分の罪が許されることを望むように、わたしたちも自分に対して悪をなした人々を許さなければならない。」（神のむすこ娘たち 144）

4. 許しを受ける条件

a. イエスはご自分の弟子たちにお教えになった祈りの中で、許しのどの原則を提示なさいましたか（マタイ 6:12, 14, 15）。わたしたちはこの祈りを、どのようにするときのみ、真実に祈ることができますか。

「ここで、大きな祝福は、条件に基づいて求められている。わたしたち自身がこれらの条件を述べるのである。わたしたちは自分たちに対する神の憐れみを、わたしたちが他の人々に示す憐れみによって量られるようにと求めるのである。キリストは、これこそ主がわたしたちを扱われる規則だと宣言される。『もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう』（マタイ 6:14, 15）。素晴らしい条件！しかし、なんとわずかにしか理解されず、注意を払われていないことであろう。もっともありふれた罪の一つであり、もっとも危険な結果を伴うものは、許さない精神にふけることである。なんと多くの人々が敵意や復讐心を抱きながら、神のみ前にひざまずき、われらが許すごとく許したまえと求めることであろう。たしかに彼らはこの祈りの重要性を真に自覚できてない。さもなければ、あえてこれを口にすることはないはずである。わたしたちは毎日、毎時間、神の許しの憐れみに依存している。そうであれば、どうして自分の同胞の罪人たちに苦々しい思いや悪意を抱くことができようか！」（神の驚くべき恵み 328）

b. もしわたしたちが他の人々にむかって許さない精神を表すならば、何を予期することができますか。それはなぜですか（マタイ 6:15; 18:34, 35）。

「わたしたちは自分がゆるすからゆるされるのではない。わたしたちがゆるすようにゆるされるのである。すべてのゆるしはなんのいさおもなくして得られる神の愛に基づいている。しかし他の人々に対するわたしたちの態度は、わたしたちがその愛を自分のものにしたかどうかを示すのである。キリストが、『あなたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう』と言われたのは、そのためである（マタイ 7:2）。」（キリストの実物教訓 227）

c. わたしたちはどのようにして、他の人々に真の許しを示すことができますか（エペソ 4:32）。

「イエスがご自身の尊い生涯において表されたやさしさと憐れみが、わたしたちの同胞仲間を扱うべき方法について、わたしたちに対する模範となるようにしよう。」（今日のわたしの生涯 235）

木曜日　*6月14日*

5.　　愛は許しを吹き込む

a.　キリストはわたしたちのために何を取り替えられましたか（ペテロ第一 3:18）。

「当然キリストが受けられるべきとり扱いをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれが当然受けるべきとり扱いを受けられた。われわれのものではなかったキリストの義によってわれわれが義とされるように、キリストはご自分のものではなかったわれわれの罪の宣告を受けられた。キリストのものであるいのちをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれのものである死を受けられた。『その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ』（イザヤ書 53:5）。」（各時代の希望上巻 11）

b.　その代わりにこのお方はわたしたちに何をお求めになりますか（ヨハネ 13:34）。

「しばしば、あなたはイエスの許しを必要としてきた。あなたは絶えずこのお方の憐れみと愛に依存してきた。それでいながら、キリストがあなたに対して働かされた精神を、あなたは他の人々に表さないのであろうか。あなたは、だれかが禁じられた道にあえて入っていくのを見ながら、重荷を感じてこなかったのであろうか。あなたは彼を親切に訓告してきただろうか。あなたは彼のために泣き、彼と共に、そして彼のために祈ったであろうか。あなたは、優しい言葉と親切な行為によって、あなたが彼を愛し、救われてほしいと望んでいることを示してきたであろうか。」（教会への証 5 巻 610）

金曜日　*6月15日*

個人的な復習問題

1. **兄弟や姉妹がわたしたちを何度も傷つけ、彼らが謝るとき、わたしたちの態度はどうあるべきですか。それはなぜですか。**
2. **わたしたちは他の人々に忍耐するために、何を学ばなければなりませんか。もしわたしたちが自分の兄弟姉妹に忍耐しなかったら、そのことがわたしたち自身について何を述べますか。**
3. **もしわたしたちを傷つけた人が自分のしてきたことを告白しないならば、わたしたちはどうすべきですか。なぜですか。**
4. **わたしたちが他の人々を許さないとき、わたしたちには何が欠けているのですか。**
5. **わたしたちはさまよってきた人々に対して、どのようにキリストの憐れみと許しを示すことができますか。**

行為は言葉よりも大声で語る

「あなたが誓いをして、それを果さないよりは、むしろ誓いをしないほうがよい。」（伝道の書 5:5）

『きょう、ぶどう園へ行って働いてくれ』という召しが来るとき、その招きを拒んではならない。『きょう、み声を聞いたなら、あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない』（ヘブル 4:7）。服従を延ばすことは安全ではない。あなたは二度と招きを聞かないかも知れない。」（キリストの実物教訓 258）

推奨文献：　キリストの実物教訓 248 ～ 261

日曜日　*6 月 17 日*

1.　権威の問題

a.　祭司長と長老たちは、キリストにどの質問をしましたか（マタイ 21:23）。

「イエスがメシヤであるという証拠は、〔イスラエルの〕役人たちの目の前にあった。そこで彼らは、イエスの権威のしるしを求めないで、イエスから何らかの告白か宣言を引き出し、それによってイエスを罪に定めようと決心した。……

彼らは、イエスが自分の権威は神からさずけられたのだと主張されるものと期待した。このような主張をされたら、彼らはそれを否定するつもりであった。」（各時代の希下巻 34, 35）

b.　今度は、キリストがどの質問を彼らになさいましたか。そしてこのお方はどのような答えを受けましたか（マタイ 21:24–27）。

「ラビたちとの論争において、相手に恥をかかせることがキリストの目的ではなかった。主は彼らの苦境を見ることをよろこばれなかった。キリストはたいせつな教訓を教えようとされたのであった。主は、敵どもが主の前にかけたわなに彼ら自身が落ち込むままにして恥ずかしい思いを彼らにさせられた。ヨハネのバプテスマの性格について彼らが無知を告白したことによって、主は語る機会をつかみ、その機会を利用して彼らの真の状態を示し、これまですでに与えられた多くの警告にさらにもう一つを加えられた。」（同上 36, 37）

2. 二人の息子の譬

a. キリストは、どの譬によって、祭司長や長老たちの心の秘密を明らかになさいましたか（マタイ 21:28–31（上句））。

b. ユダヤ人のあいだの役人たちより、だれが神の御国に近くいましたか（マタイ 21:31（下句），32）。

「何であっても純粋な愛からなされることは、人の目には非常に小さかったり、つまらないことであっても、完全に実り多いものである。なぜなら、神はどれだけしたかよりもどれほどの愛をもってなしたかをより高く評価されるからである。」（教会への証 2 巻 135）

「神が測られるのは、わたしたちの得た大きな結果ではなく、わたしたちが行動した動機である。このお方は成し遂げられた偉大さよりも、善と忠実さを重んじられる。」（同上 510, 511）。

c. わたしたちはどのように二人の息子の譬の中の兄のようになるかもしれませんか（ヨハネ第一 3:7; ヤコブ 4:17）。

「今日、多くの者が、神のいましめに従っているといいながら、その心の中には、他の人々に対して流れ出る神の愛を持っていない。キリストは、主ご自身と一体となって世を救うみわざにたずさわるように彼らをお召しになる。しかし、彼らは、『おとうさん、参ります』と言うことだけで満足している。彼らは行かないのである。彼らは、神の働きをしている者と協力しない。彼らはなまけ者である。不忠実なむすこのように、彼らは神に偽って約束をする。……口では、神の子であると称するが、生活と品性においては、その関係を否定するのである。彼は意志を神に服従させていない。彼らの生活は偽りである。

彼らは、それが犠牲を必要としない場合には、服従の約束を守るように見える。しかし、克己や犠牲が要求されたり、十字架がかかげられるのを見ると彼らはしりごみするのである。そして、義務についての確信は薄らぎ、神のいましめを知りつつ犯すことが習慣となる。耳は神のみことばを聞くことであろう。しかし、霊的知覚力はもはやない。心はかたくなになり、良心はまひしている。

キリストに対してはっきりした敵意をあらわしていないからといって、キリストに仕えていると思い違えてはならない。 わたしたちは、このように考えて自分の心を欺くのである。時であれ、財産であれ、そのほかどんな神のおゆだねになったたまものであれ、神が神のご用に用いるようにわたしたちにお与えになった物を自分のために用いることは神に敵することになるのである。」（キリストの実物教訓 256）

3. わたしたちは招きを受け入れたであろうか?

a. 救い主は、どの招きによって、多くの人々をテストされますか(マタイ 21:28)。

『きょう、ぶどう園へ行って働いてくれ』という命令によって、すべての人の誠実さが試みられる。ことばだけでなく行為が伴うであろうか。召された者は、その持つすべての知識を用い、忠実に、私心なく、ぶどう園の所有者のために働いているであろうか。」(キリストの実物教訓 258)

b. 主はわたしたち一人びとりがなすために、どの働きを持っておられますか。この働きには何が含まれていますか(ペテロ第二 1:2–7)。

「もしあなたが、あなたの魂というぶどう園を忠実に耕すならば、神はあなたを、ご自身と共に働く者としておられるのである。あなたは、自分のためだけでなく、他の人々のためにも、なすべき働きがあるであろう。教会をぶどう園にたとえることによって、キリストは、わたしたちの同情と働きの対象を、教会内部の者にのみ限るようにお教えになったわけではない。主のぶどう園は広げなければならない。働きの場は全世界に広げられることを主は望んでおられる。わたしたちが神の教えと恵みを受けるとき、尊い作物をいかに育てるべきかについての知識を他の人々に分け与えなければならない。そうすることによって、わたしたちは主のぶどう園を拡張することができるのである。神は、わたしたちの信仰、愛、忍耐の証拠を見たいと待っておられる。」(同上 259)

c. この働きをなすのに、だれがわたしたちの大いなる模範ですか(詩篇 40:8)。

「ここでキリストの生涯を考えてみよう。キリストは、人類のかしらとして立つとともに、父なる神に奉仕なさった。こうして、すべての人の子らのとるべき道を示す模範となられた。神は、キリストのような服従を今日の人々に求めておられる。キリストは父なる神に、愛と喜びと自由をもってお仕えになった。『わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります』と宣言された(詩篇 40:8)。キリストは、なすべき働きを完成するためには、どんな犠牲も大き過ぎるとは考えず、どんな苦労もつら過ぎるとはお思いにならなかった。十二才の時、彼は『わたしが自分の父の業をつとめている(詳訳聖書)ことを、ご存じなかったのですか』と言われた(ルカ 2:49)。彼はすでに召しを聞き、働きに着手しておられたのであった。『わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわざをなし遂げることである』と彼は言われた(ヨハネ 4:34)。」(同上 260)

4.　奉仕において自分たちの最善を果たす

a.　わたしたちがこのお方のために働くとき、主はどの程度、わたしたちがご自分に自らを明け渡すことを望んでおられますか（テサロニケ第一 5:23）。

「わたしたちのすべての働きにおいて、自己を全く降伏させることが要求されている。真心から、おのれを忘れて行なった最も小さな義務は、利己心に汚された最も大きな働きよりも、神に喜ばれるのである。神は、わたしたちが、どれほどキリストの精神を抱いているか、また、わたしたちの仕事がどれほどキリストのみ姿をあらわしているかをごらんになる。神は、仕事の量よりも、わたしたちの仕事に対する愛と忠実さのほうを尊重されるのである。」（キリストの実物教訓 381）

「このお方のみ旨をなすという唯一専心の目的をもって奮闘し、真に神を愛しおそれる人は、自分の体、思い、心、魂、力を神の奉仕の下に置くのである。……神のみ旨を自分の意志とすると決心している人々は、万事につけ、神に奉仕し、喜ばせなければならない。」（天国で 190）

b.　いつ、主は大変喜ばれますか（マルコ 1:11; ヨハネ 8:29; 14:21; 15:10）。

「わたしたちは単に天国を得るために戒めを守るべきではない。そうではなく、罪人を、御父の律法の違反の刑罰から救うために死なれたお方を喜ばせるために従うべきである。……できるだけキリストから遠く離れて従い、破滅の淵に落ちることなくどれほど近づけるか冒険してみるというのは悲しい決心である。」（勝利されたキリスト 77）

「品性建設のあらゆる面において、神を喜ばせなければならない。これはわたしたちにもできることである。エノクは、堕落した時代に生存しながら、神を喜ばせた。現代にも、エノクのような人びとがいる。」（キリストの実物教訓 306）

c.　どの種の奉仕は、神にとって忌むべきものですか（マタイ 15:8, 9）。

「イエスを愛すると主張するある人々は欺瞞者であり、彼らの宗教はみな口先だけである。それは品性を変えない。それは内側の恵みの働きを表さない。彼らはキリストの学校で柔和と心のへりくだりという教訓を学んだことを示さない。彼らは生活や品性によって、自分たちがキリストのくびきを負い、キリストの重荷を担っていることを示さない。彼らは神のみ言葉の中に与えられている標準ではなく、人間の標準にしか達していない。」（この日を神と共に 299）

木曜日　6月21日

5.　完全な献身の祝福

a.　行いと真理において、主に奉仕している人々には、どのようなすばらしい約束が与えられていますか（ヨハネ 14:23; マタイ 7:24, 25）。

「彼に忠実に仕える者について、主は、『彼らは……、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ』と言っておられる（マラキ書 3:17）。」（キリストの実物教訓 260）

「わたしたちがキリストの救いの力に信頼している限り、堕落した万軍のどんな策略もわなも、わたしたちを害するようなことは何もできない。天使たちは絶えずわたしたちと共にいて導き、守っている。神はわたしたちがご自分のすべてのみ旨を行えるようにするため、ご自分の救いの力を持つようにとお定めになった。諸々の約束をつかみ、それらを一瞬一瞬抱いていよう。神は本気で仰せになっているのだと信じよう。……

このように、わたしたちの手の届くところにある力をつかむとき、わたしたちは非常に強く希望を受けるので、神の約束に全的により頼むことができる。そしてキリストのうちにある可能性をつかんで、わたしたちは神のむすこ娘となるのである。……

人には神の相続人、キリストの共同相続人となる特権が与えられている。このように高められた人々には、キリストの無尽蔵の富が開かれる。それは世の富の何千倍も価値がある。こうして、イエス・キリストの功績を通して、有限な人間は神との交わり、このお方の愛しい御子との交わりへと高められるのである。」（天国で 32）

金曜日　6月22日

個人的な復習問題

1. **キリストはラビたちに恥をかかせるおつもりはありませんでしたが、彼らに対するこのお方の答えのご目的は何でしたか。**
2. **二人の息子の譬の中の兄のように、何がわたしたちにキリストへの奉仕にしり込みさせる原因となりますか。**
3. **このお方が地上におられたときのこのお方の従順の模範に、わたしたちはどのようにして従うことができますか。**
4. **わたしたちはどのようにして、単に口先だけを捧げる者ではなく、み言葉を行う者になることができますか。**
5. **わたしたちが神の救いの力に信頼するとき、わたしたちに何が可能ですか。**

花婿を迎える

「だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、……わからないからである。あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。」（マルコ 13:35, 36）。

「品性がわかるのは、危機においてである。『さあ花婿だ、迎えに出なさい』との熱心な叫びが声高々と真夜中にあがって、眠っていたおとめたちが目をさましたときに、だれがそのときのための用意をしていたかがわかる。両方とも不意におそわれたのであったが、一方には、非常の場合の用意があって、他方にはその用意がなかったのである。」（キリストの実物教訓 389）

推奨文献：　キリストの実物教訓 384 ～ 397

日曜日　*6 月 24 日*

1.　わたしたちの時代のための譬

a.　主は天の御国をだれと比べられましたか（マタイ 25:1, 2）。

「キリストは、弟子たちと一しょにオリブ山に座しておられる。夕日は、山のかなたに沈み、夕やみのとばりが空をおおっている。すぐ目の前には、何かの祝い事でもあるのか、あかあかとあかりが輝いている家がある。窓から流れ出る光と、付近に待っている人びとは、やがて、婚礼の行列が現われるしるしである。……

キリストは、花婿を待っている人びとをごらんになりながら、十人のおとめの話を弟子たちに語られた。キリストは彼らの経験によって、キリストの再臨直前の教会の経験を説明なさった。

二種のおとめたちが待っていたことは、主を待望すると公言する人びとも二種あることを示している。彼らは純粋の信仰を表明するので、おとめと呼ばれている。」（キリストの実物教訓 384, 385）

b.　思慮深いおとめと思慮の浅いおとめの違いは何でしたか（マタイ 25:3, 4）。

2. 他の人々のように寝てはならない

a. 眠っていたおとめを起こしたのは何でしたか（マタイ 25:5, 6）。1844 年に彼らの経験はどのように神の民によって繰り返されましたか。

「花婿の遅延は、主が来られると期待した際の時の経過と、失望と、そして一見遅延と思われたこととを表わしていた。この不安な時において、表面的で半信半疑の人々の興味はすぐに動揺し始め、その努力はゆるみ始めた。しかし、自分で得た聖書の知識に信仰の基礎を置いた人々は、失望の波に洗い去られることのない岩の上に立っていた。」（各時代の大争闘下巻 100）

b. わたしたちが生きている時代について、神はわたしたちにどの警告を与えておられますか（ルカ 21:36; ペテロ第一 4:7）。

「わたしたちがしなければならないのは、ただこの一日である。今日、わたしたちは自分の信任に対して忠実でなければならない。今日、わたしたちは心を尽くして神を愛し、隣人を自分自身のように愛さなければならない。今日、わたしたちは敵の誘惑に抵抗し、キリストの恵みを通して勝利を得なければならない。こうして、わたしたちはキリストの来臨を目覚めて待つのである。一日一日、わたしたちはあたかもこれがこの地上における自分の最後の日であることを知っているかのように生きるべきである。もしキリストが明日来られることを知っているなら、わたしたちはこの日をできるかぎりあらゆる親切な言葉、あらゆる無我の行いで一杯にしないであろうか。」（天国で 355）

c. わたしたちの眠っている状態から、どのように起きることができますか（ローマ 13:11–14）。

「わたしたちは聖なる生涯において進歩したいなら多く祈らなければならない。真理のメッセージが最初に宣布されたとき、わたしたちはどれほど祈ったことであろう。部屋や納屋や果樹園や木立の中で、どれほどしばしばとりなしの声が聞かれたことであろう。どれほど頻繁にわたしたちは熱心な祈りのうちに数時間を過ごし、二人や三人が共に約束を求め、しばしば泣き声が、それから感謝と讃美の歌の声が聞かれたことであろう。今、神の日は、わたしたちがはじめ信じたときよりも近い。であるから、わたしたちはその頃よりももっと真剣に、もっと熱心に、そしてもっと熱烈であるべきである。わたしたちの危険は当時よりも今の方が大きい。魂はもっと頑なになっている。わたしたちは今キリストの精神を吹き込まれなければならない。そしてわたしたちはそれを受けるまで安んじるべきではない。」（教会への証 5 巻 161）

3. 油の必要

a. おとめたちが起きて、自分のあかりを整えようとしたとき、何が起こりましたか（マタイ 25:7–9）。

「たとえのなかで、十人のおとめは、みな、花婿を迎えに出た。だれもがあかりと油の器をもっていた。しばらくの間は、彼らの間になんの相違も見られなかった。キリスト再臨直前の教会もその通りである。すべての者が聖書の知識を持っている。すべての者がキリストの再臨の近づいたことを聞き、確信をもって彼の出現を待つのである。しかし、たとえにあったように、現在も同じである。待つ時間が長びいて信仰が試みられる。そして、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と呼ぶ声がしたとき、準備のできていない者が多い。彼らは、あかりと共に、器の中に油を持っていない。彼らは聖霊に欠けているのである。」（キリストの実物教訓 386, 387）

b. 譬の中で、あかりは何を表し、油は何を表していますか（詩篇 119:105; ゼカリヤ 4:1–6）。聖霊に欠けているとはどういう意味ですか。

「神の聖霊がないならば、どんなにみことばの知識があっても役に立たない。聖霊を伴わない真理の理論は、魂を生かすことも、心を清めることもできない。聖書の戒めや約束をどんなによく知っていても、神の霊がその真理を心に深く刻みこませなければ、品性は変えられない。」（同上 387）

c. 思慮の浅いおとめたちは今日、どのように描写されていますか（テモテ第二 3:5; 黙示録 3:17）。

「思慮の浅い女たちによって代表されている種類の人びとは偽善者ではない。彼らは、真理に関心をもち、真理を擁護し、真理を信じる人びとにひきつけられてはいるが、聖霊の働きに自分自身をゆだねていないのである。彼らは、岩なるキリスト・イエスの上に落ちて、彼らの古い性質がくだかれていない。

……彼らは、神を知らない。彼らは、神の品性を学んでいない。神と交わっていない。であるから、彼らはいかに神に信頼し、ながめ、生きるべきかを知らないのである。彼らの神への奉仕は、形式化してしまう。」（同上 387）

4. わたしたちの不足を言い訳する

a. 思慮の浅いおとめたちが自分たちのあかりの油を買いに、思慮深いおとめたちから離れている間に、何が起こりましたか（マタイ 25:10）。

「十人のおとめたちは、この地上歴史の夕暮れ時に待っていた。すべての者は、クリスチャンであるといっていた。すべての者は招きを受け、名を持ち、あかりを持ち、神に奉仕をしていると公言していた。すべての者は、見たところ 、主の現われを待っているように思えた。しかし、五人は、用意がなかった。彼らは、あわてふためき、ついに婚宴に列することができなかった。」（キリストの実物教訓 389）

『さあ、花婿だ』という叫びを聞いて目をさまし、それから油のきれたあかりに油を補って、主を迎える用意をすることはできない。今、キリストとかけ離れた生活をしていながら、天ではキリストとの交わりにふさわしいものとなることはできない。」（同上 390）

b. 思慮の浅いおとめたちは、婚宴の主に何をするよう懇願しましたか（マタイ 25:11, 12）。

c. 神を失望させるとき、わたしたちは自分の罪や過ちを認める代わりに、しばしばどのように反応しますか。サウルはどうしましたか。サムエルの反応は何でしたか（サムエル記上 15:18–22）。

「わたしたちの背教のために言い訳をしたり、他の人を責めたりする時間はない。今、もし状況さえもっと良ければ、わたしたちが神のみわざをなすのに、どれほど良いか、どれほどたやすいことかと魂にへつらう時間はない。わたしたちはキリストを信じると公言する人々にさえ、罪深い言い訳によって神に対して罪を犯すのをやめるように言わなければならない。

イエスはすべての危急に対して備えをしてこられた。もし彼らがこのお方の導かれる道を歩むなら、このお方は、荒いところを平らにしてくださる。このお方はご自分の経験をもって、魂の周りに大気を創造してくださる。このお方は戸を閉じて、神とだけ隔離されたところへ魂を導かれる。そして、困窮している魂は、神を除いて、すべての人とすべてのものを忘れる。サタンは彼と語るであろうが、神に大声で語りなさい。そうすれば、サタンの黄泉の陰を追いやってくださる。へりくだった、抑制された、感謝の心をもって、彼らは『あなたの優しさがわたしを大いなるものにされました』と言って、出てくるであろう。」（原稿ﾘﾘｰｽ 12 巻 336）

木曜日　*6月28日*

5.　今日のための召し

a.　今日、神はわたしたちにどのような召しをしておられますか。このお方は召しに伴い、どの約束をしておられますか（マラキ 3:7（下旬）；イザヤ 44:22; 55:7）。

「ああ、愛、何と素晴らしい神の愛よ！わたしたちのなまぬるさや罪にもかかわらず、このお方は、わたしに戻ってきなさいと言われる。そうすれば、わたしはあなたに戻り、あなたのすべての背信を癒そうと。」（わたしたちの高い召し 352）。
「主の前に自分たちの心をへりくだらせ、自分たちの罪を捨てて熱心に主を求める人々は、真理の聖化を通して王家の一員にふさわしい者にされ、王をその麗しさのうちに見るようになる。」（この日を神と共に 248）

b.　わたしたちが召しに注意を払うとき、このお方は世に宣布するために、どのメッセージをわたしたちにお与えになりますか（イザヤ 40:9）。

「あわれみに満ちた最後の光、世界に伝えるべき最後のあわれみの使命は、神の愛の啓示である。神の子らは、神の栄光をあらわさなければならない。彼らは、その生活と品性において、神の恵みが彼らのためにどんなことをなしたかを表わさなければならない。
義の太陽の光はよい行ない、―真のことば、清い行ないなどによって、輝き出なければならない。」（キリストの実物教訓 392）

金曜日　*6月29日*

個人的な復習問題

1. **二種類のおとめたちによって、だれが表わされていますか。なぜ彼らはおとめと呼ばれているのですか。**
2. **主のまもない来臨に備えるために、この待ち見張る時に、何をすることができますか。**
3. **思慮深いおとめたちに似ている人々の生涯において、聖霊はどの働きをしますか。**
4. **わたしたちの品性の欠点を状況のせいにする代わりに、わたしたちは何をすることができますか。**
5. **神はご自分の最後の憐れみのメッセージを世に伝えるために、わたしたちをどのようにお用いになれますか。**

第一安息日献金

4月7日

ベネズエラの治療院のために

(4 ページ参照)

5月5日

世界のミッションのために

(25 ページ参照)

6月2日

インドのトゥーットゥックディの礼拝堂のために

(46 ページ参照)